## Ⅱ. 評定尺度調査の分析結果

#### 【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」による4段階評価である。本報告書においては、データの理解や分析のしやすさを考慮し、便宜的に4段階のカテゴリーに4~1の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。3が2よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4と3の間と3と2の間が等距離(つまり1の間隔)だという保証はどこにもないからである。しかし4つのカテゴリーごとの相対度数(パーセント)から何らかの傾向を掴み取ることは容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察する目安の1つとして用いたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でのみ、その傾向を読み取ることになる。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を同時に提示した。これによって、その評価項目に対し肯定的評価をしている学生がいかほどの割合で存在するかを推測する目安とする。

さらに回答者の属性ごとの回答者数を提示する。本来ならば、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、データの構造上、全てのデータに回答者数を掲載すると極めて煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした(次頁表 2 - 1)。以下、本章においては、常に次頁の回答者数に基づいてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層ほど誤差も大きく出る可能性があるので、注意が必要である。たとえば、学部の年齢階層別「19 歳以下」、大学院の職業別「農業等」「他大学等の学生」、年齢階層別「20~29 歳」等の場合である。(参考値として、記載している。)

# 表 2 - 1 回答者数一覧

【学部】

## 【大学院】

全体		()	単位:人)	全体		<u>i</u> )	単位:人)
メディア		年齢階層		メディア		年齢階層	
テレビ科目(TV)	2,810	19歳以下	8	テレビ科目(TV)	156	20~29歳	8
ラジオ科目(R)	2,298	20~29歳	372	ラジオ科目(R)	297	30~39歳	34
職業		30~39歳	698	職業		40~49歳	84
公務員等	365	40~49歳	1,058	公務員等	49	50~59歳	124
教員	210	50~59歳	943	教員	76	60~69歳	139
会社員	982	60~69歳	1,335	会社員	97	70歳以上	61
個人営業·自営業	334	70歳以上	665	個人営業・自営業	30	プログラム	
農業等	39	コース		農業等	7	生活健康科学	96
看護師等	523	基盤科目	195	看護師等	13	人間発達科学	67
家事専業	374	基盤科目(外国語)	262	家事専業	17	人文学	170
パート・アルバイト	602	生活と福祉	628	パート・アルバイト	28	情報学	15
他大学等の学生	28	心理と教育	779	他大学等の学生	2	自然環境科学	105
無職	1,345	社会と産業	1,259	無職	101		
その他	236	人間と文化	969	その他	21		
		情報	415				
		自然と環境	428				
		夏季集中科目(司書)	88				
		夏季集中科目(看護)	85				

<sup>※</sup>職業及び年齢には無回答があるため、職業及び年齢階層の回答者数をそれぞれ合計しても、全体の回答者数とは一致しない。

### Ⅱ-1. 学部の分析結果

#### Ⅱ-1-1. 項目平均から見た全体的傾向

学部の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが(図2-1)である。まずはこの図によって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

今回の調査における項目平均は、いずれもまずまずの高評価と言える。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値 3.14、肯定的評価(「あてはまる」+「や やあてはまる」)77%、同様に『授業評価に関わる項目平均』も平均値 3.23、肯定的評 価 79%と高い値を示している。

『授業評価に関わる項目平均』をさらに内容ごとにみると、『全体評価』は肯定的評価をしている人が 83%と高い。その他の項目もある程度平均的であるが、『放送授業』の評価は 75% と他と相対的に低めである。

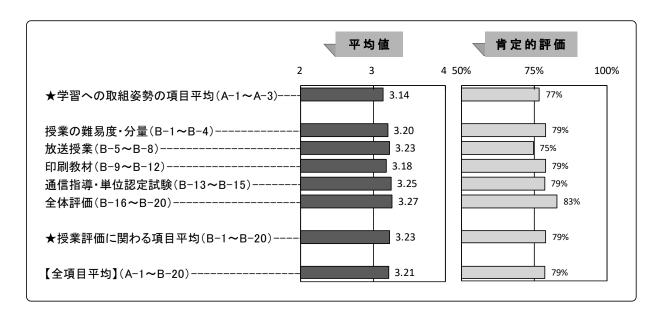


図2-1 【学部】項目平均による全体的傾向

評価項目平均を科目の開設年度で比較した時(図 2 - 2)、2016年度新規開設科目は、2015年度新規開設科目に比べ、平均値ではほぼ同じ水準を維持しているが、肯定的評価の割合は『放送授業』を除く全ての項目において、2015年度より僅かながら低くなっている。

平均値 肯定的評価 ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) ■平成27年度(2015) ■平成27年度(2015) □平成26年度(2014) 口平成26年度(2014) 4 50% 75% 100% 3.14 77% 78% 3.14 ★学習への取組姿勢の項目平均(A-1~A-3)--78% 3.13 3.20 79% 80% 授業の難易度·分量(B-1~B-4)---3.22 3.22 84% 3.23 75% 放送授業(B-5~B-8)-----3.22 75% 83% 3.23 3.18 79% 80% 3.19 印刷教材(B-9~B-12)-----3.17 83% 79% 3.25 通信指導·単位認定試験(B-13~B-15)----3.26 80% 85% 3.24 83% 3.27 84% 全体評価(B-16~B-20)-----3.29 3.28 86% 79% 3.23 80% ★授業評価に関わる項目平均(B-1~B-20)-----3.24 84% 3.23 3.21 79% 【全項目平均】(A-1~B-20)-----3.23 80% 3.22 83%

図2-2 【学部】項目平均による全体的傾向 (開設年度比較)

メディア別に 2016 年度新規開設科目の評価項目の平均を見ると (図 2 - 3)、全ての項目でテレビ科目がラジオ科目を上回っている。特に、『放送授業』での差が大きい。

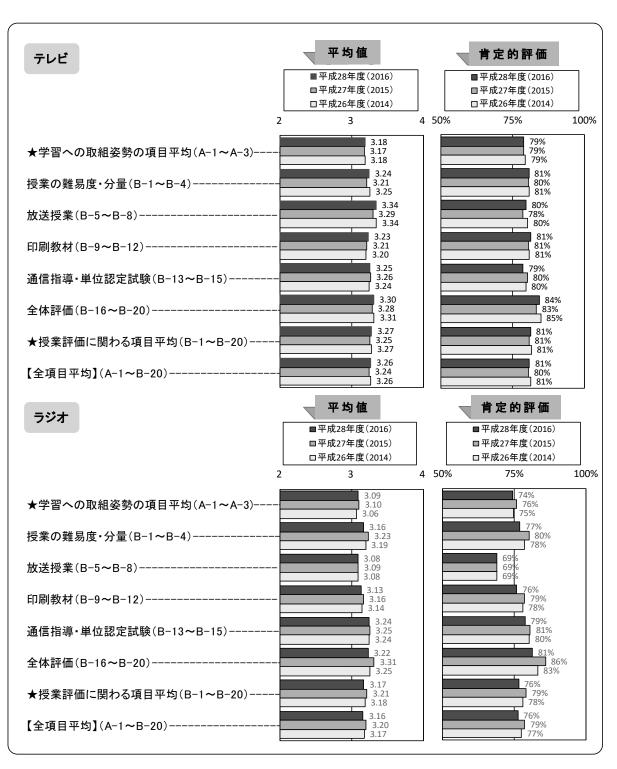
肯定的評価についても、概ね平均値の結果をそのまま反映していると言えるが、『通信 指導・単位認定試験』では結果が拮抗している。

平均值 肯定的評価 テレビ ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) ■平成27年度(2015) ■平成27年度(2015) □平成26年度(2014) □平成26年度(2014) 4 50% 75% 100% ★学習への取組姿勢の項目平均(A-1~A-3)--79% 79% 3.18 3.24 3.21 81% 授業の難易度·分量(B-1~B-4)---80% 81% 3.25 20% 78% 80% 放送授業(B-5~B-8)-----3.34 3.23 3.21 81% 印刷教材(B-9~B-12)-----3.20 3.25 79% 通信指導·単位認定試験(B-13~B-15)--3.26 3.24 80% 80% 3.30 全体評価(B-16~B-20)------3.28 3.31 85% 3.27 3.25 3.27 81% ★授業評価に関わる項目平均(B-1~B-20)----81% 3.26 3.24 3.26 81% 【全項目平均】(A-1~B-20)------平均值 肯定的評価 ラジオ ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) □平成27年度(2015) □平成27年度(2015) □平成26年度(2014) □平成26年度(2014) 4 50% 3.09 3.10 ★学習への取組姿勢の項目平均(A-1~A-3)-76% 77% 80% 3.16 授業の難易度·分量(B-1~B-4)----3.23 3.19 60 放送授業(B-5~B-8)-----69 69 3.08 3.13 印刷教材(B-9~B-12)-----3.16 3.14 79% 3.24 通信指導·単位認定試験(B-13~B-15)-81% 3.24 3.22 3.31 全体評価(B-16~B-20)-----86% 3.25 76% ★授業評価に関わる項目平均(B-1~B-20)--79% T 78% 3.18 【全項目平均】(A-1~B-20)------3.17

図2-3 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向

次にメディア別の項目平均を科目の開設年度で比較してみると(図2-4)、テレビ科目は、『通信指導・単位認定試験』以外の項目平均で2015年度より若干高い値となっているが、全体的には2014年度からほぼ同じ水準で推移している。ラジオ科目では、いずれの項目平均でも昨年度の水準を下回っており、昨年度示された改善の傾向とは逆になっている。肯定的評価についても、平均値の結果がほぼそのまま反映されている。

図2-4 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向 (開設年度比較)



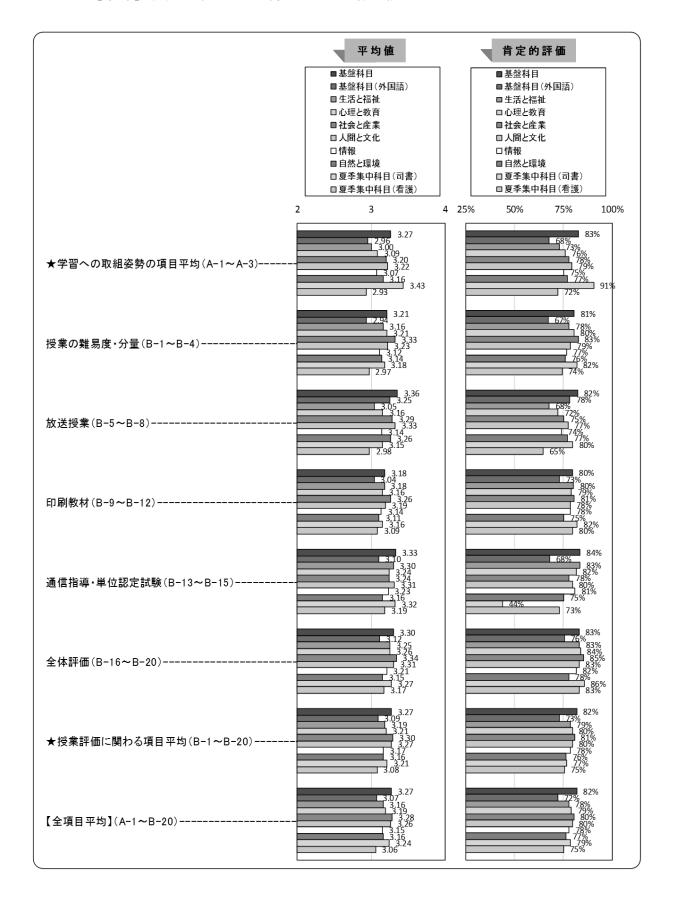
回答者の年齢階層別に 2016 年度新規開設科目の項目平均を見ると (図 2 - 5)、『学習への取組姿勢の項目平均』は年齢層が高くなるほど評価平均が高くなっている。また、授業評価に関わる全ての項目において、30歳代の値が最も低く、年齢層が高くなるほど評価平均が高くなり、60歳代がピークで 70歳以上では若干低くなっている。(19歳以下はサンプル数が 8 と少ないので参考値とする。以下同様)

平均值 肯定的評価 ■19歳以下 ■19歳以下 ■20~29歳 ■20~29歳 ■30~39歳 ■30~39歳 □40~49歳 □40~49歳 ■50~59歳 ■50~59歳 □60~69歳 □60~69歳 口70歳以上 口70歳以上 50% 100% 2 71% ★学習への取組姿勢の項目平均(A-1~A-3)-授業の難易度·分量(B-1~B-4)-3.24 3.30 3.23 82% 77% 81% 3.02 放送授業(B-5~B-8)--78% 79% 75% 3.28 3.33 3.33 3.17 3.08 3.15 印刷教材(B-9~B-12)---81% 81% 78% 3.25 3.19 3.24 3.19 通信指導·単位認定試験(B-13~B-15)---3.19 3.23 3.25 3.30 3.26 80% 75% 81% 3.58 81% \_\_82% 全体評価(B-16~B-20)----85% 85% 85% 3.47 3 10 3,19 ★授業評価に関わる項目平均(B-1~B-20)--3.39 【全項目平均】(A-1~B-20)---

図2-5 【学部】項目平均による年齢階層別全体的傾向

科目の所属コース別に項目平均を見ると(次頁図 2 - 6)、「基盤科目」と「夏季集中科目(司書教諭)」の『学習への取組姿勢の項目平均』の評価が高い。また、授業評価に関わるほとんどの項目において「基盤科目」と「社会と産業」「人間と文化」は評価が高い傾向にあるが、「基盤科目(外国語)」と「夏季集中科目(看護)」の評価が低い傾向にある。他は大きな差異は認められず、どのコースもそれなりの評価を得ていると言えるが、『授業の難易度・分量』『放送授業』の項目においては、科目によって評価の高いコースや低いコースとばらつきが大きい。

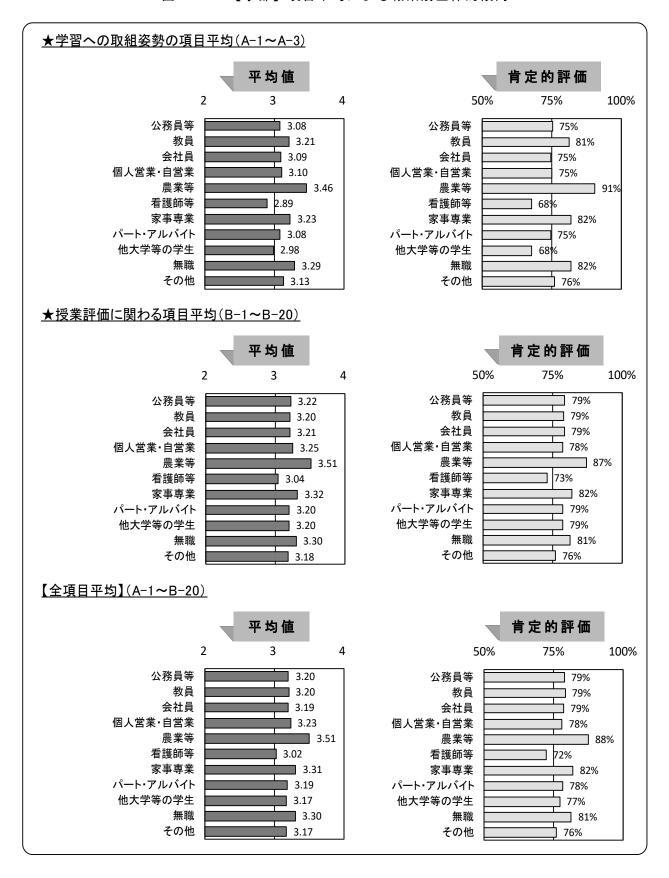
図2-6 【学部】項目平均による所属コース別全体的傾向



回答者を職業別に見ると(次頁図2-7)、『学習への取組姿勢の項目平均』は、「農業等」、「無職」、「家事専業」の順で高く、在宅者や自宅周辺での労働者の取組姿勢が高いと推察される。一方、「看護師等」、「他大学等の学生」の評価が低い。『授業評価に関わる項目平均』、『全項目平均』では、「農業等」が高い値となっている。肯定的評価を見ても、いずれの項目でも「農業等」の評価が高い一方、「看護師等」の評価が低い結果となっている。

現役学生と専門職の取組姿勢、専門職の授業評価が低いことは、一考すべき課題である。

図2-7 【学部】項目平均による職業別全体的傾向



ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

学習への取組姿勢(図2-8)では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」が平均値3.27、肯定的評価83%と、総じて熱心に学習していることが表れている。同様に(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も平均値3.28、肯定的評価84%と高い。しかしこれらに比べると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値2.87、肯定的評価64%と低く、学習は印刷教材中心という傾向を示している。

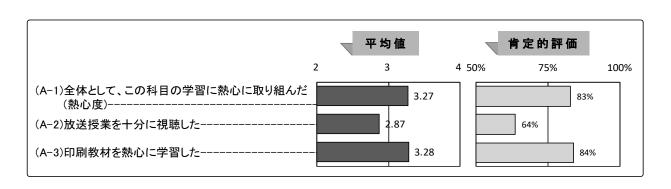
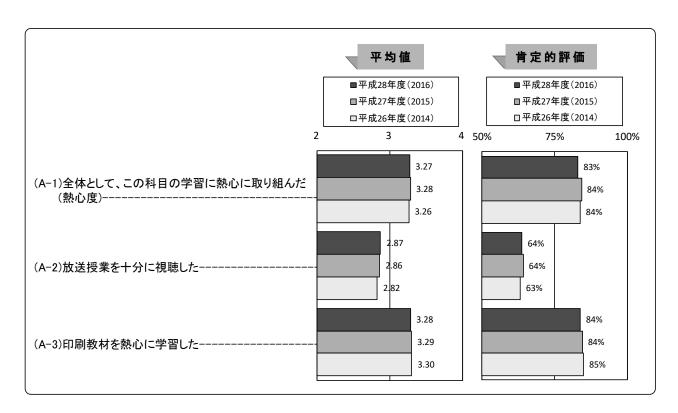


図2-8 【学部】回答者全体の取組姿勢

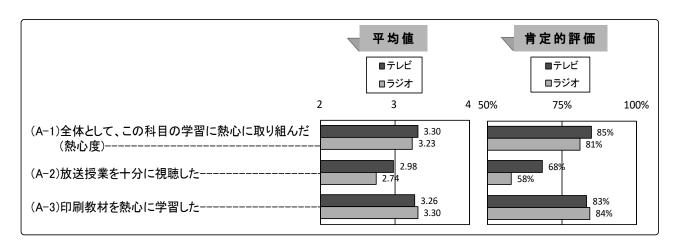
取組姿勢を時系列で見ると(次頁図 2 - 9)、いずれの項目においても、平均値、肯定的評価ともに前回とほぼ同じ水準である。年度によっての変化は認められないが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の項目は低いままである。この傾向が続いていることを考えれば、その原因を追求し、今後の授業内容の改善を試みることにより取組姿勢も向上するものと考えられる。時間に制約がある放送授業ではインターネットやオンデマンドなどでの番組提供を増やすことにより、時間に制約されない視聴環境を作っていくことも必要であろう。

図2-9 【学部】回答者全体の取組姿勢 (時系列)



次にメディア別に取組姿勢を見ると(図2-10)、(A-1)「全体として、この科目の学習に取り組んだ」の項目ではテレビ科目がラジオ科目を若干上回っており、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の項目ではテレビ科目の方がラジオ科目を大きく上回る評価となっている。逆に(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」という項目ではラジオ科目の方がテレビ科目より若干高い。

図2-10 【学部】メディア別の取組姿勢



メディア別の取組姿勢を時系列で見ると(図 2-11)、テレビ科目は、2015 年度に比べ、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の項目で僅かに上がっている。ラジオ科目については、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の項目でやや上がったものの、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」の項目ではやや下がっている。これらについては、『図 2-4 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向』(24 ページ)も参照されたい。

平均値 肯定的評価 テレビ ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) ■平成27年度(2015) □平成27年度(2015) 口平成26年度(2014) □平成26年度(2014) 4 50% 75% 100% 2 85% 3.30 (A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ 84% 3.28 (熱心度)-85% 3.29 68% 2.98 (A-2)放送授業を十分に視聴した---69% 2.96 2.96 69% 83% 3.26 83% (A-3)印刷教材を熱心に学習した--3.26 84% 3.28 平均值 肯定的評価 ラジオ ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) ■平成27年度(2015) ■平成27年度(2015) □平成26年度(2014) □平成26年度(2014) 3 4 50% 100% 3.23 81% (A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ 3.27 84% (熱心度)--3.22 82% 2.74 58% 2.68 (A-2)放送授業を十分に視聴した---57% 2.65 56% 3.30 84% (A-3)印刷教材を熱心に学習した-3.35 87% 3.32 86%

図2-11 【学部】メディア別の取組姿勢(時系列)

年齢階層別に取組姿勢を見ると(図 2-12)、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の項目では年齢階層が上がるほど値が高くなっているのが特徴的である。また、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」の項目において、60 歳代、および 70 歳以上の値が高くなっている。退職などによって教材に取り組む時間が比較的豊富にあったのではないかと推測される。

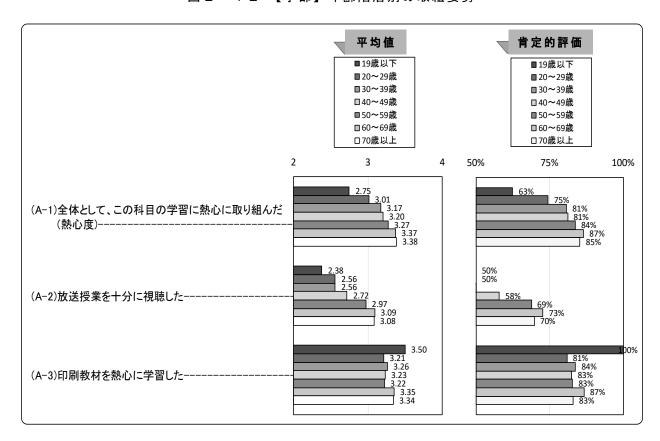


図2-12 【学部】年齢階層別の取組姿勢

所属コース別に取組姿勢を見ると(図 2 - 1 3)、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、「生活と福祉」「心理と教育」、「夏季集中科目(看護)」の値が極めて低くなっている。他のコースも平均値で3を下回っているものが多い。「夏季集中科目(司書)」と「夏季集中科目(看護)」については大きく差があり、授業内容以外の要素もあると思われるが、いずれにせよ、放送授業に潜在的な改善の必要があり、視聴を増加させる工夫が必要かと思われる。(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」と(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は全体的に高い値となっているが、「基盤科目(外国語)」で(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が平均値で3を下回っている。また、「生活と福祉」と「夏季集中科目(看護)」では(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は低いものの(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は高くなっている。

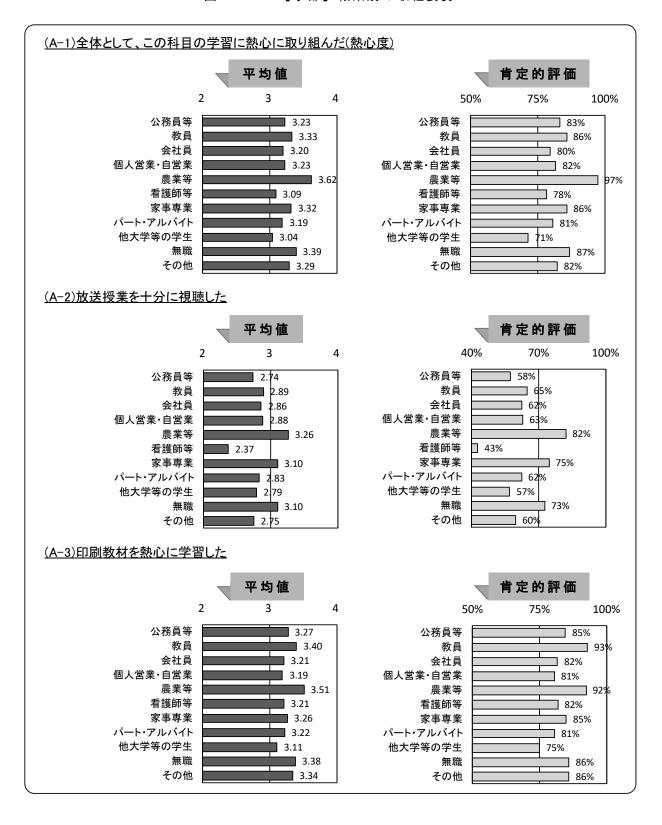
平均値 肯定的評価 ■基盤科目 ■基盤科目 ■基盤科目(外国語) ■基盤科目(外国語) ■生活と福祉 ■生活と福祉 □心理と教育 □心理と教育 ■社会と産業 ■社会と産業 ロ人間と文化 □人間と文化 口情報 口情報 ■自然と環境 ■自然と環境 □ 頁季集由科目(司書) □夏季集中科目(司書) □夏季集中科目(看護) □夏季集中科目(看護) 4 25% 100% 85% 3.35 (A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ (熱心度)-3.61 3 19 77% (A-2)放送授業を十分に視聴した-80% 3 26 86% 3.29 3.30 3.33 3.31 3.23 3.23 (A-3)印刷教材を熱心に学習した-3.47

図2-13【学部】所属コース別の取組姿勢

職業別に取組姿勢を見ると(次頁図 2-14)、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」は、「看護師等」「他大学等の学生」の値がやや低いものの全体的に値が高い傾向にある。

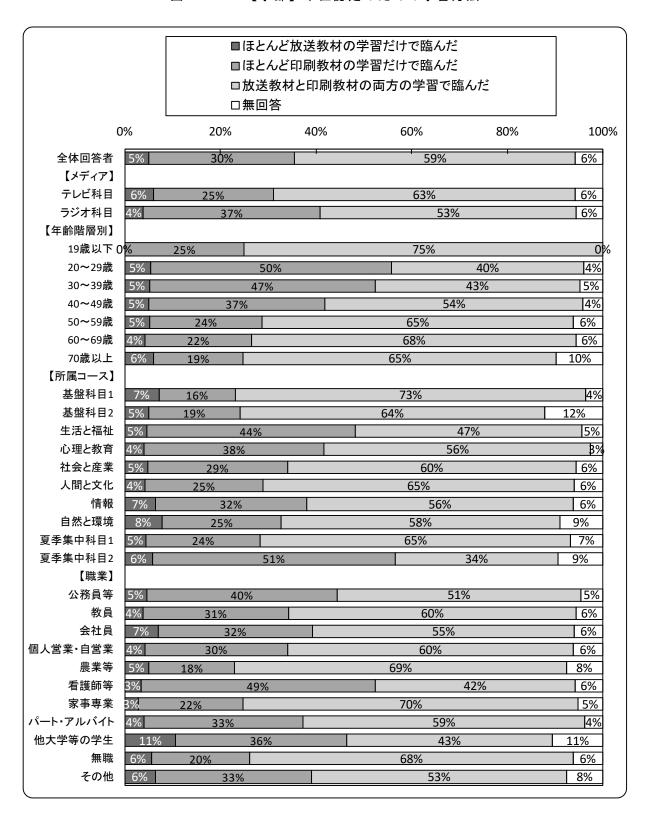
- (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も、全体的に高い値となっており、「農業等」や「教員」「無職」が特に高い。
- (A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」と (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」に比べ、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の値が全体的に低いのは特徴的である。「看護師等」は値が極めて低いが、これは職業ならではの事情が背景にあると思われる。放送時間に都合をつけやすい「農業等」「家事専業」「無職」では相対的に値が高くなっている。

図2-14【学部】職業別の取組姿勢



単位認定のための学習方法(次頁図 2 - 1 5)は、全体では『放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ』が 59%を占めており、最も値が高い。年齢階層別では高齢層になるほど値が高くなる傾向があり、年齢とともに教材学習のバランスが良くなる傾向がみられる。次に『ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ』は全体で 30%を占めており、メディア別では「テレビ科目」に比べて「ラジオ科目」が高い。これは「ラジオ科目」という特質上、印刷教材で視覚的に学習を補おうとしたためと受け取れる。職業別では「看護師等」が印刷教材での学習だけで臨む比率が最も高く、交替制の勤務体系で、決まった時間に放送授業を受けられなかったのではと推測される。『ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ』は全体で 5%程度の割合であり、『ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ』の 30%と比べても、受講生がいかに印刷教材を重視しているかがうかがえる。自由な時間に繰り返し読むことができる印刷教材と、視聴に制約のある放送教材という違いはあるにしても、この傾向に、放送教材の問題点が逆説的に浮かびあがっていると考えることもできる。

図2-15【学部】単位認定のための学習方法



### (1) 全体評価

ここからは学部の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

まず全体評価の各項目を見ると(図 2-16)、(B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」は平均値 3.45、肯定的評価 89%とかなり高い評価を得ている。また(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」も平均値 3.30、肯定的評価 83%と高くなっている。

さらに(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」も平均値 3.24、 肯定的評価 82%、(B-16)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」は平 均値 3.24、肯定的評価 83%と、比較的高い評価と言える。ただ理解度については満足度 に比べると値が低いので、内容について、さらに詳しく、わかりやすく説明・解説する 必要性が感じられる。

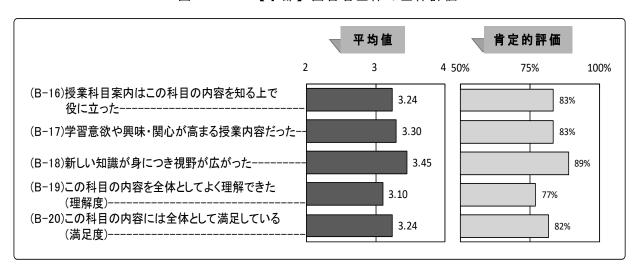


図2-16【学部】回答者全体の全体評価

全体評価を時系列で見ると(図 2-17)、どの項目も 2015 年度より低い値となっている。(B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」、(B-19)「この科目の内容を全体として理解できた(理解度)」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」においては昨年度わずかながら上昇したが、今年度は下降に転じ、2014 年度の水準を下回っている。

平均值 肯定的評価 ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) ■平成27年度(2015) □平成27年度(2015) □平成26年度(2014) □平成26年度(2014) 4 50% 75% 100% 83% 3.24 (B-16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で 84% 3.25 役に立った一 3.25 84% 83% 3.30 (B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった-3.33 85% 85% 3.33 3.45 89% (B-18)新しい知識が身につき視野が広がった--3.48 90% 3.46 89% 3.10 77% (B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた 3.14 79% (理解度))-3.12 79% 82% 3.24 (B-20)この科目の内容には全体として満足している 3.27 83% (満足度)--3.26 83%

図2-17【学部】回答者全体の全体評価 (時系列)

メディア別に全体評価を見ると (図 2-18)、全ての項目においてテレビ科目の方が ラジオ科目より高くなっている。

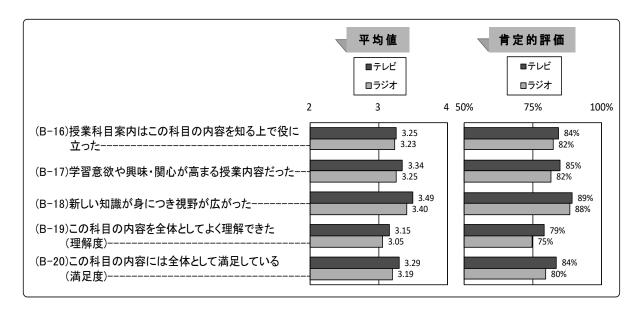
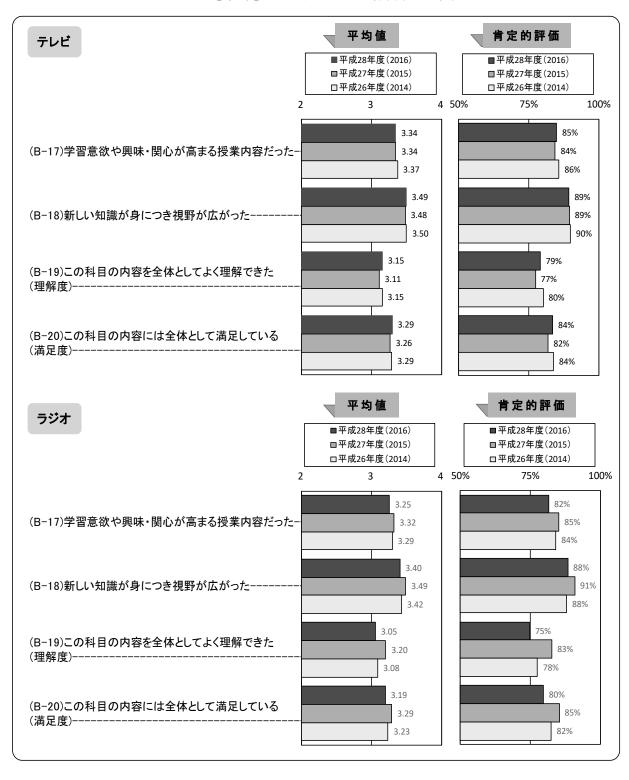


図2-18【学部】メディア別の全体評価

メディア別の全体評価を時系列で見ると(次頁図2-19)、テレビ科目では(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」を除くいずれの項目でも 2015 年度より高い数値となっているが、ラジオ科目ではいずれの項目でも 2015 年度より低い数値となっている。

これらについても、『図2-4【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向』(24ページ)を参照されたい。

図2-19【学部】メディア別の全体評価(時系列)



年齢階層別に全体評価を見ると(図 2-20)、20 歳代の(B-19)は平均値が 3 を下回っているのを除き、どの項目でも評価は高い傾向にある。(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は、他の項目に比べて全体が低い傾向にあるが、年齢層が高くなるほど評価が高くなり、60 歳代がピークで 70 歳以上では若干低くなっている。(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」においてもこの加齢との関係は概ね同じような傾向がみられる。

また、(B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」は、いずれの年齢階層でも評価が高い傾向にある。

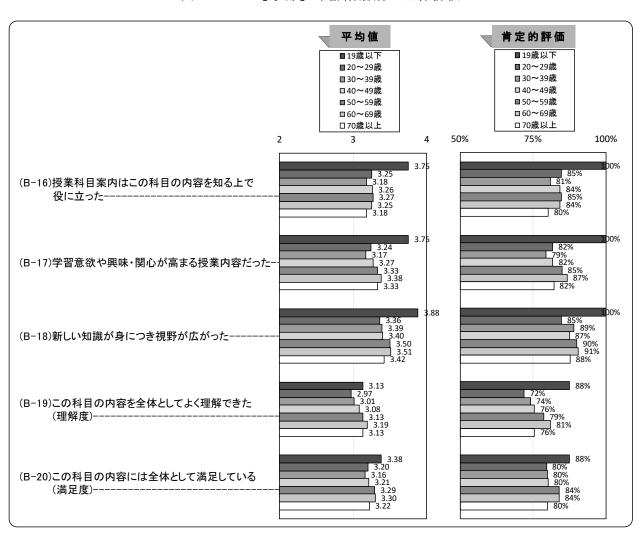


図2-20【学部】年齢階層別の全体評価

所属コース別に全体評価を見ると(図 2 - 2 1)、全体的には肯定的であるが(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」において「基盤科目(看護)」「自然と環境」では 3 を下回っているのが特徴的である。このコースにおいては、興味を引く新しい情報は提供できたものの全体的な理解には結びついていない様子がうかがえる。学生の理解をさらに高めるような、講義内容・指導が求められている。

また、「基盤科目」「生活と福祉」「心理と教育」「社会と産業」「人間と文化」「夏季集中科目(司書)」はいずれの項目でも評価が高いことから、現在の水準を維持しつつ、さらに向上を心がけるべきであろう。

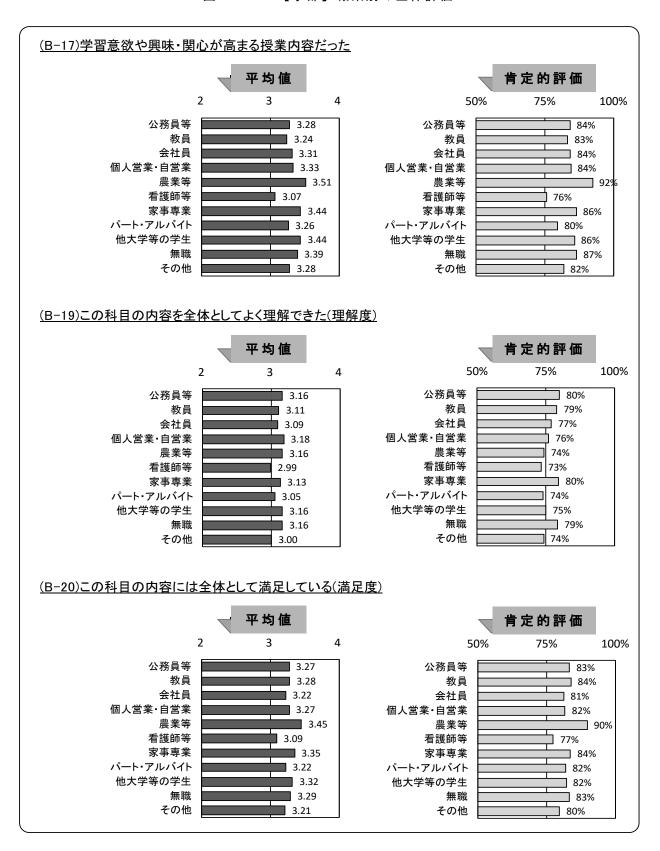
平均値 肯定的評価 ■基盤科目 ■基盤科目 ■基盤科目(外国語) ■基盤科目(外国語) ■生活と福祉 ■生活と福祉 口心理と教育 □心理と教育 ■社会と産業 ■社会と産業 □人間と文化 口人間と文化 口情報 口情報 ■自然と環境 ■自然と環境 □夏季集中科目(司書) □夏季集中科目(司書) □夏季集中科目(看護) □夏季集中科目(看護) 4 25% 100% (B-16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で 役に立った一 (B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった-3 52 (B-18)新しい知識が身につき視野が広がった-3.08 77% (B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた 03.23 09 (理解度)--83% 3.31 83% 83% 84% (B-20)この科目の内容には全体として満足している (満足度)-

図2-21【学部】所属コース別の全体評価

職業別に全体評価を見ると(次頁図2-22)、平均値において(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は、「看護師等」でわずかではあるが3を下回っている。また、全てにおいて「看護師等」からの評価が低く、「農業等」「家事専業」「他大学等の学生」においては高い評価を得ているのが特徴である。

評価の低い職業が絞られているので、その職業に対する対応が効果的な改善につながると思われる。

#### 図2-22【学部】職業別の全体評価



#### (2)授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていくこととする。

難易度・分量については(図2-23)、平均値で見ると放送授業・印刷教材ともに比較的高い評価となっているが、肯定的評価の割合で比較すると放送授業よりも印刷教材についての評価が高い。放送教材については特に難易度・分量ともに印刷教材に比べて改善の必要性が大きい。

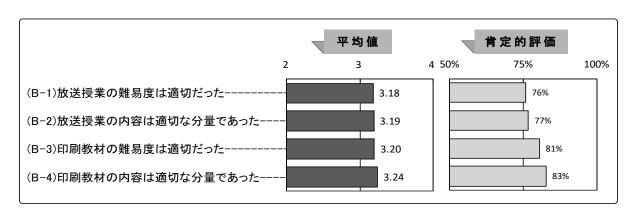


図2-23【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価

授業の難易度・分量を開設年度で比較すると(図2-24)、放送授業においては難易度・分量とも平均値・肯定的評価の両方で2015年度とほぼ同じ水準となっている。印刷教材においては、難易度・分量とも平均値・肯定的評価の両方で2015年度をやや下回っている。

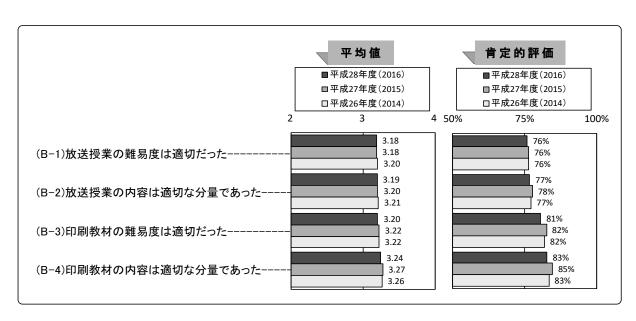


図2-24【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価 (開設年度比較)

メディア別に授業の難易度・分量を見ると(図 2-25)、放送授業・印刷教材ともに テレビ科目がラジオ科目を上回っている。特に肯定的評価の割合においては放送授業で その傾向が顕著である。ラジオ科目については、放送授業の難易度・分量ともに工夫を 求められていることがうかがえる。

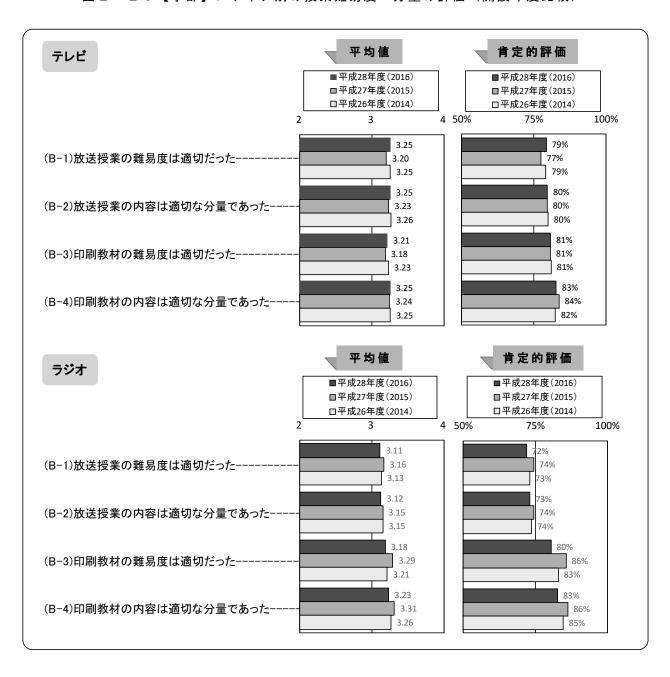
平均値 肯定的評価 ■テレビ ■テレビ □ラジオ □ラジオ 4 50% 2 3 75% 100% 3.25 79% (B-1)放送授業の難易度は適切だった-72% 3.11 3.25 80% (B-2)放送授業の内容は適切な分量であった--3.12 73% 81% 3.21 (B-3)印刷教材の難易度は適切だった----3.18 80% 83% 3.25 (B-4)印刷教材の内容は適切な分量であった--3.23 83%

図2-25【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価

メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると(図 2 - 2 6)、2015 年度 に比べてテレビ科目は全ての項目で平均値がやや上がっている。

ラジオ科目は2015年度においてはほぼ全ての項目で2014年度より、評価がやや上がったが、2016年度は逆に全ての項目で下がり、2014年度よりも低い水準となった。肯定的評価全体においては本年度に限らず放送授業の割合がかなり低いため、放送授業そのものにさらなる改善が必要と考えるべきである。

図2-26【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価 (開設年度比較)



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると(図 2 - 2 7)、30 歳代の評価が一番低く、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」は 3 を下回っている。50 歳代以上はいずれの項目も評価が高い傾向がある。

40歳代までは放送授業より印刷教材の評価が高い傾向がある。

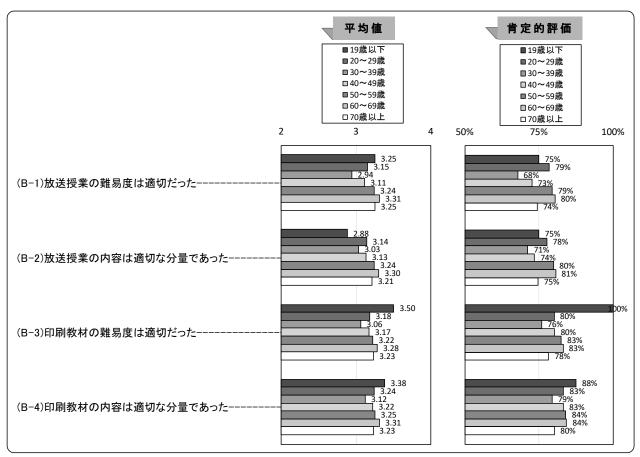
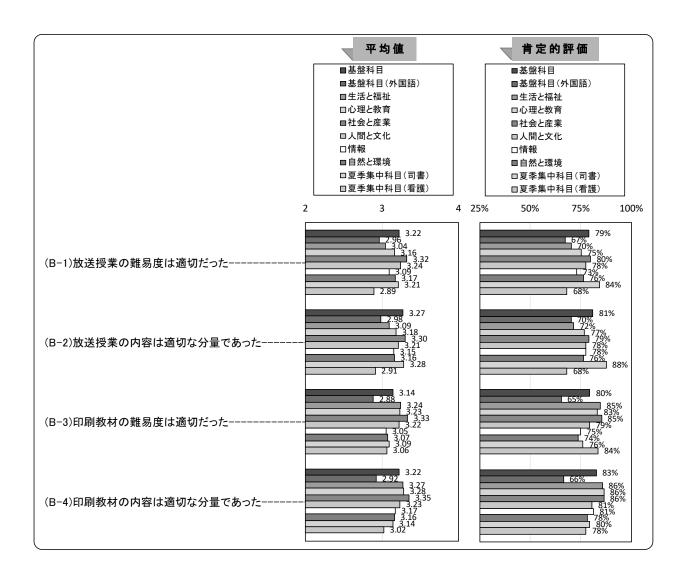


図2-27【学部】年齢階層別の授業難易度・分量の評価

所属コース別に授業の難易度・分量を見ると(図2-28)、放送授業、印刷教材ともに、難易度と分量は「社会と産業」「人間と文化」で評価が高くなっている。また、「生活と福祉」「心理と教育」は印刷教材、「基盤科目」「夏季集中科目(司書)」は放送授業の評価が高い。

一方、放送授業、印刷教材とも「基盤科目(外国語)」「夏季集中科目(看護)」の評価が低い。

図2-28【学部】所属コース別の授業難易度・分量の評価



職業別に授業の難易度を見ると(図2-29)、放送授業、印刷教材とも「看護師等」で評価が低く、「農業等」で評価が高くなっているのが際立つ。取組姿勢の分析結果に表れたように、「看護師等」は時間的制約がある職業であり、そもそも放送授業を視聴することが難しいことや現場での実践と授業内容との関係性が関連していると思われる。また、印刷教材の難易度は「他大学等の学生」の評価の低さが目立っている。

授業の難易度は、科目そのものの難易度、授業方法、そして学生個人個人の取組姿勢 や学習意欲などが互いに影響し合い、評価がされていると考えられる。

(B-1)放送授業の難易度は適切だった 平均值 肯定的評価 3 4 50% 75% 100% 公務員等 3.18 公務員等 77% 教員 3.18 教員 79% ☐ 77% 3.17 会社員 会社員 個人営業·自営業 個人営業·自営業 3.25 78% 農業等 3.59 農業等 87% 看護師等 看護師等 62% 家事専業 3.23 家事専業 75% パート・アルバイト 3.18 パート・アルバイト 77% 他大学等の学生 3.22 他大学等の学生 89% 無職 3.31 無職 □ 80% その他 3.10 その他 7**0**% (B-3)印刷教材の難易度は適切だった 平均值 肯定的評価 50% 75% 100% 3 2 4 公務員等 **7** 82% 公務員等 3.23 76% 教員 教員 3.12 会社員 3.18 会社員 31% 個人営業·自営業 個人営業·自営業 79% 3.22 農業等 農業等 92% 3.59 看護師等 看護師等 78% 3.04 家事専業 家事専業 79% 3.22 パート・アルバイト 3.19 パート・アルバイト □ 80% 他大学等の学生 82% 他大学等の学生 3.04 82% 無職 3.28 無職 その他 その他 80% 3.15

図2-29【学部】職業別の授業難易度の評価

#### (3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていくことにする。

放送授業に関する評価項目で最も評価が高いのは(図 2-30)、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」であり、平均値 3.36、肯定的評価 80%となっている。しかし、放送授業の総合評価でもある(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.18、肯定的評価 73%とやや低めである。なお、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」も、平均値 3.15、肯定的評価 70%とやや低い水準である。放送上の構成や演出にも一工夫が必要である。

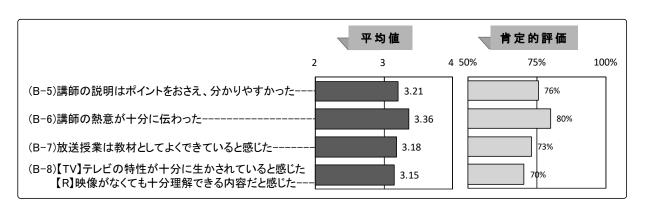


図2-30【学部】回答者全体の放送授業の評価

放送授業の評価の平均を時系列で見ると(図2-31)、平均値ではいずれの項目も微減・微増を繰り返しているが、肯定的評価ではほとんど同じであり、変化が僅かなことを物語っている。

(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の平均値は微増傾向であるが、低めの水準であり、さらなる改善が望まれる。

平均値 肯定的評価 ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) ■平成27年度(2015) ■平成27年度(2015) □平成26年度(2014) □平成26年度(2014) 4 50% 75% 100% 2 3 3.21 76% 76% (B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった-3.21 3.23 76% 3.36 80% 3.34 80% (B-6)講師の熱意が十分に伝わった-3.37 80% 73% 3.18 74% 3.19 (B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた-74% 3.20 3.15 (B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 70% 3.14 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた-70% 3.11

図2-31【学部】回答者全体の放送授業の評価 (時系列)

メディア別に放送授業の肯定的評価を見ると (図 2-32)、いずれの項目もテレビ科目がラジオ科目を大きく上回っており、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の差が特に大きい。

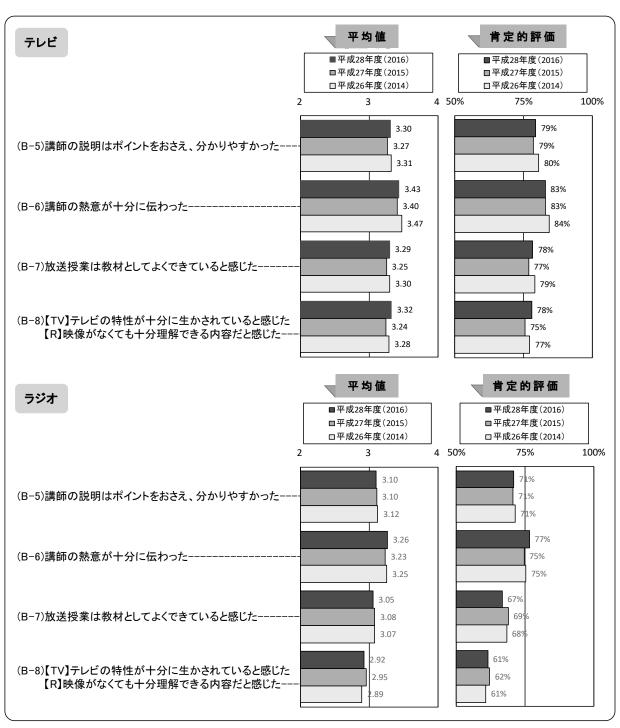
平均値 肯定的評価 ■テレビ ■テレビ □ラジオ □ラジオ 4 50% 100% 2 3 75% 3.30 79% (B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった-3.10 71% 3.43 83% (B-6)講師の熱意が十分に伝わった-----3.26 77% 78% 3.29 (B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた---3.05 67% (B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 78% 3.32 2.92 61% 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた-

図2-32【学部】メディア別の放送授業の評価

また、メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると(図2-33)、テレビ科目では、 いずれの項目も2015年度に比べ、高い評価となっている。

ラジオ科目においては、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」の平均値は 2015 年度 に比べ高くなっているが、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の平均値・肯定的評価はともにやや低くなっている。

図2-33【学部】メディア別の放送授業の評価(時系列)



年齢階層別に放送授業の評価を見ると(図2-34)、いずれの項目も、30歳代の評価が最も低く、年齢層が高くなるほど評価が高くなる傾向がある。

平均値 肯定的評価 ■19歳以下 ■19歳以下 ■20~29歳 ■20~29歳 ■30~39歳 ■30~39歳 □ 40~49歳 ■ 50~59歳 □ 60~69歳 □40~49歳 ■50~59歳 □60~69歳 口70歳以上 口70歳以上 2 50% 75% 100% 73% 69% 73% 2.99 3.16 (B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった-(B-6)講師の熱意が十分に伝わった-66% 70% (B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた-3.29 (B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた .98 \_3.12 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた-3.19 3.21 3.22

図2-34【学部】年齢階層別の放送授業の評価

所属コース別に放送授業の評価を見ると(図2-35)、「基盤科目」「社会と産業」「人 間と文化」の評価がいずれの項目でも高い水準にある。

一方、「生活と福祉」「夏季集中科目(看護)」はいずれの項目でも評価は低い水準にと どまった。

平均値 肯定的評価 ■基盤科目 ■基盤科目 ■基盤科目(外国語) ■基盤科目(外国語) ■生活と福祉 ■生活と福祉 口心理と教育 □心理と教育 ■社会と産業 ■社会と産業 □人間と文化 □人間と文化 口情報 □情報 ■自然と環境 ■自然と環境 □夏季集中科目(司書) □夏季集中科目(司書) □夏季集中科目(看護) □夏季集中科目(看護) 4 25% 75% 100% 16 3.29 3.30 (B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった-(B-6)講師の熱意が十分に伝わった-3.45 3.14 3.04 (B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた-3.20 12 3.31 3.32 3.10 3.20 3.20 03 3.16 3.21 (B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた-

2 92

図2-35【学部】所属コース別の放送授業の評価

職業別に放送授業の評価を見ると(図2-36)、全体的に「看護師等」の評価が低く、 不規則な職業のため放送時間に合わせての視聴が難しい状況や、彼らの講義内容に対す る要求の高さがうかがえる。

一方、「農業等」の評価はいずれの項目も評価が極めて高い。他の職業では、「家事専 業」「他大学等の学生」「無職」においても評価が高い水準である。

(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった 平均值 肯定的評価 3 4 50% 75% 100% 公務員等 3.19 公務員等 75% 教員 3.18 77% 教員 会社員 3.21 会社員 77% 個人営業·自営業 3.27 個人営業·自営業 78% 農業等 3.56 農業等 □ 80% 看護師等 2.90 看護師等 **1** 63% 家事専業 家事専業 3.33 31% パート・アルバイト 3.18 パート・アルバイト 75% 他大学等の学生 他大学等の学生 3.35 89% 無職 3.31 無職 79% その他 3.15 その他 68% (B-6)講師の熱意が十分に伝わった 肯定的評価 平均値 75% 100% 2 3 4 50% 公務員等 3.27 公務員等 77% 78% 教員 3.25 教員 □ 80% 会計員 会社員 3.34 個人営業・自営業 個人営業・自営業 □ 80% 3.41 農業等 3.65 農業等 90% 看護師等 3.03 看護師等 66% 家事専業 家事専業 3.48 85% パート・アルバイト 31% パート・アルバイト 3.34 他大学等の学生 他大学等の学生 3.31 無職 無職 36% 3.50 その他 その他 3.32 75% (B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた 平均值 肯定的評価 2 50% 100% 3 4 75% 公務員等 3.13 公務員等 73% 教員 3.16 教員 75% 会社員 3.17 会社員 73% 個人営業・自営業 3.22 個人営業·自営業 72% 農業等 3.57 農業等 35% 看護師等 2.91 看護師等 63% 家事専業 3.31 家事専業 78% パート・アルバイト 3.16 パート・アルバイト 73% 他大学等の学生 3.31 他大学等の学生 89% 無職 3.28 無職 77% その他 3.10 その他 66%

図2-36【学部】職業別の放送授業の評価

#### (4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

印刷教材の評価項目では(図 2-37)、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」が平均値 3.23、肯定的評価 82% と高い評価のため、印刷教材として総合的に高評価といえる。また (B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」と (B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」も高い評価であるが、 (B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は他の項目に比べるとやや評価が低い。より理解しやすい教材に期待している様子がうかがえる。

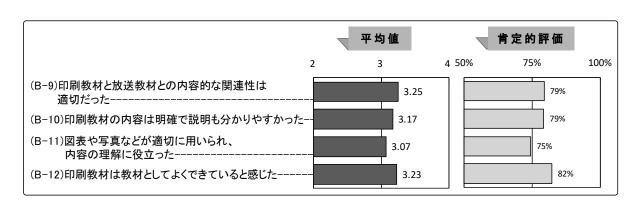


図2-37【学部】回答者全体の印刷教材の評価

印刷教材の評価を時系列で見ると(図 2-38)、いずれの項目においても 2015 年度 とほぼ同じか、やや低い。

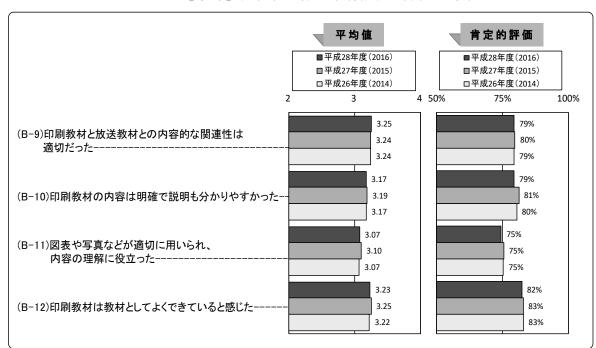


図2-38【学部】回答者全体の印刷教材の評価 (時系列)

メディア別に印刷教材の評価を見ると(図2-39)、一昨年度までの傾向に戻り、テレビ科目のほうがラジオ科目よりも評価が高くなっている。

(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」においてはテレビ科目とラジオ科目の評価の差は大きく、前年度より開いた。ラジオ科目の印刷教材の改善は一進一退していることがうかがえる。

ラジオ科目の評価が下がったことに関しては、綿密な分析と対策が必要となろう。

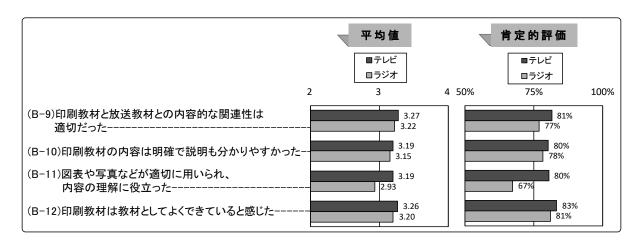


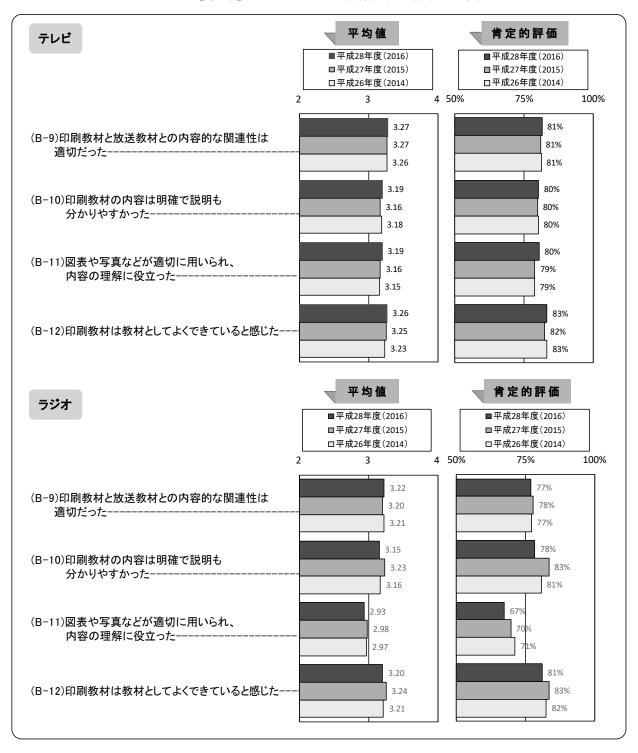
図2-39【学部】メディア別の印刷教材の評価

メディア別の印刷教材の結果を時系列で見ると(次頁図 2-40)、テレビ科目の平均値では、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」の項目以外の 3 項目で前年度を上回っているが、肯定的評価はいずれの項目でも横ばいか僅かに高くなっており、変化が小さいことがうかがわれる。

ラジオ項目では平均値では(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」以外の3項目で前年の評価を下回っているが、肯定的評価においては、全ての項目で前年度を下回っている。

教材の評価には映像-音と印刷物の相関性も影響していると考えられる。テレビでカラーの図表を見たり、動画を見ると印刷物の写真は物足りなくなるであろうし、反対にラジオでは想像力が高まり、印刷された図表がイメージとして拡大されることも考えられる。媒体の特性を考慮し、デメリットを補う改善が求められる。

図2-40【学部】メディア別の印刷教材の評価 (時系列)



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると(図 2-41)わかるように、全体として概ね高い値となっている。しかし、全ての評価項目において、平均値・肯定的評価ともに 30歳代の評価が低い傾向であり、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」では 3を下回っている。30歳代以降は年齢層が高くなるほど評価が高くなり、60歳代がピークで 70歳以上では若干低くなっている。

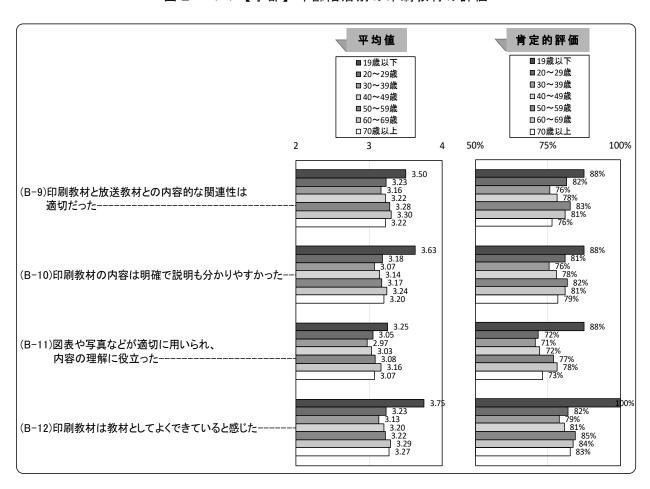


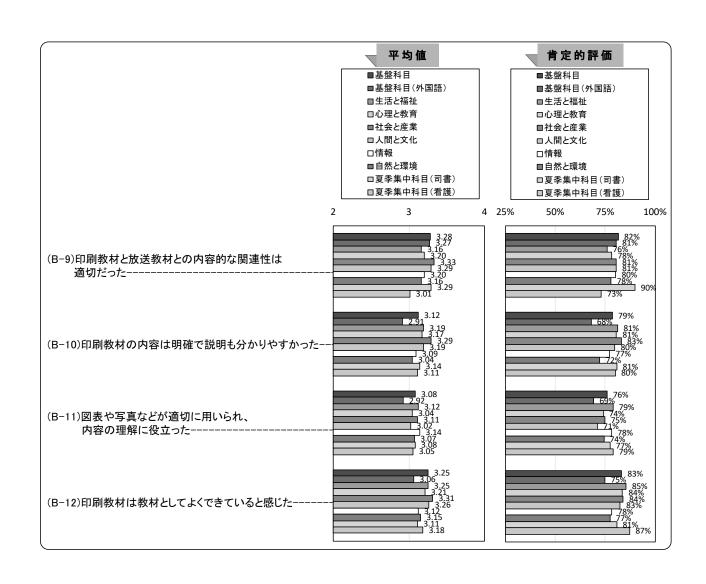
図2-41【学部】年齢階層別の印刷教材の評価

所属コース別に印刷教材の評価を見ると(図2-42)、全体的に「社会と産業」の評価が高い。

また、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」の評価が高く、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」の評価が低いのはほとんどのコースに共通している。

「基盤科目(外国語)」は(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」の評価が3を下回っており、分かりやすさ・理解しやすさの工夫に改善が必要と感じられる。

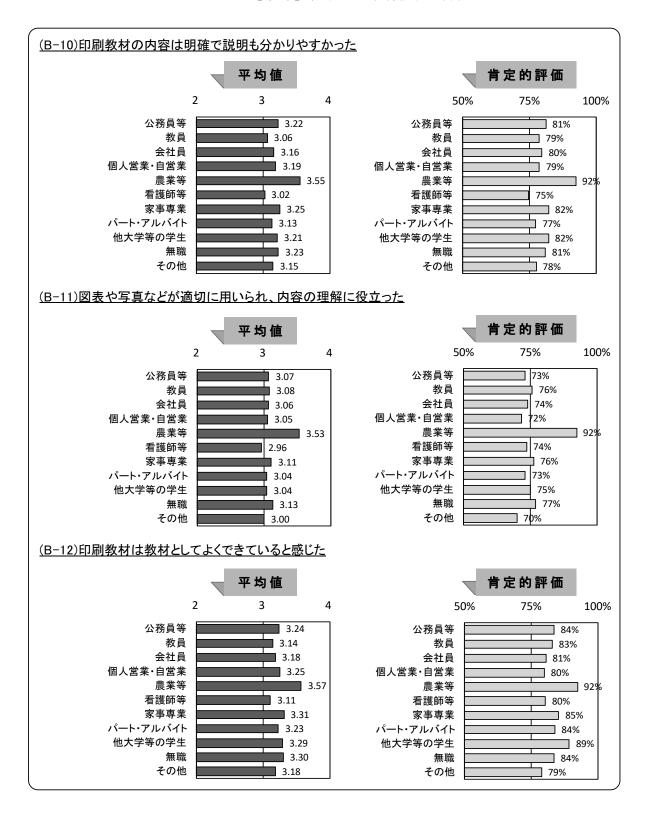
図2-42【学部】所属コース別の印刷教材の評価



職業別の印刷教材の評価では(次頁図2-43)、全ての項目で「農業等」の評価が極めて高く、「看護師等」の評価が低くなっている。「看護師等」では(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」で3を下回り、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」では3を僅かに上回る低い評価である。印刷教材に盛り込む資料の改善が必要とされる。

また、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」の「教員」の評価が他の職業と比べて低く、日頃から印刷教材を使った授業をしている立場からの厳しい目が感じられる。

図2-43【学部】職業別の印刷教材の評価



#### (5)通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については(図 2-44)、(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が平均値 3.28、肯定的評価 80%、(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」が平均値 3.31、肯定的評価 82% と、いずれも高い評価を得ている。

単位認定試験については、(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」が平均値 3.16、肯定的評価 74%と比較的評価が低い。

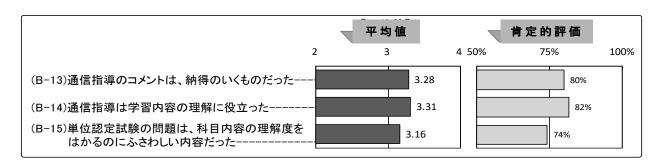


図2-44【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価

通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(図2-45)、総じてほぼ同じ水準 を保っている。

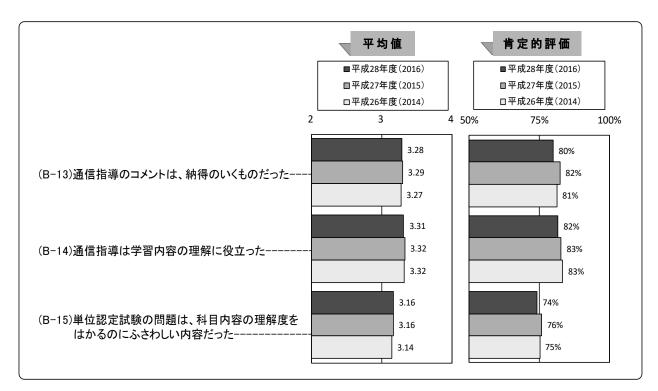


図2-45【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価(時系列)

所属コース別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると(図2-46)、総じて「基盤科目」「生活と福祉」「人間と文化」「夏季集中科目(司書)」の評価が高い。

一方、全ての項目において「基盤科目(外国語)」の評価は相対的に低い。自由記述などの内容を精査し、原因を読み取り改善すべきであろう。

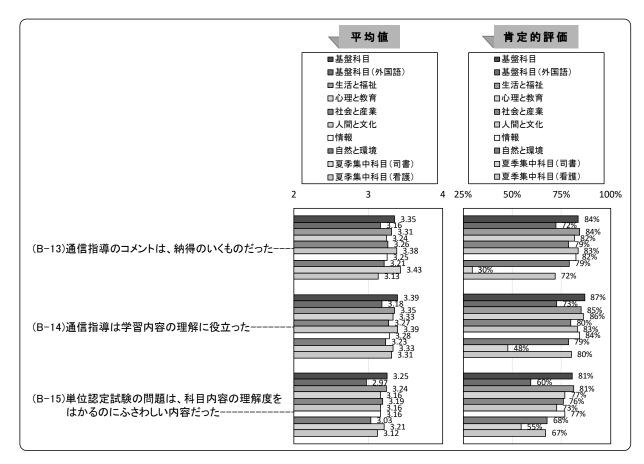


図2-46【学部】所属コース別の通信指導・単位認定試験の評価

単位認定試験の評価が低いことに関しては、放送授業との関連が考えられる。「放送教材と印刷教材の両方で学習した」学生が 59%、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」学生が 30%であったことを考えると、放送教材と印刷教材の連動性や、放送授業への呼び込みに改善が求められる。

ここでは評価項目間の相関を見ることによって、より深く授業改善の糸口を探っていくことにする。分析には主にピアソンの単相関係数(以下、相関係数)を用いた。相関係数については巻末の参考資料を参照されたい。

ただし、相関係数による分析では、変数間の共変関係は分かっても、因果関係(つまりどちらが原因となる変数で、どちらが結果かということ)は分からないのが普通である。以下の分析ではそのことを十分留意していただきたい。

この分析では、「いずれの項目を基準に、いずれの項目との相関を見るのか?」ということが分析において重要である。概して、総合的な評価は個別の評価を考慮してなされることを前提として、総合評価を基準にそのような評価となった個別評価はいずれの項目か、という観点から総合評価と個別評価との関係を見ていくことにしよう。

(表 2 - 2) は、放送授業の各評価項目と(A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢)を元にした放送授業の各項目との相関の分析と、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価)を元にした放送授業の各項目との相関の分析を並べたものである。

表2-2 【学部】放送授業と各項目との単相関係数

	(A-2) 放送授業を十分に 視聴した	(B-7) 放送授業は教材と してよくできていると 感じた
(A-2)放送授業を十分に視聴した	1.000	0. 408
(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0. 410	0. 610
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0. 418	0. 625
(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0. 417	0. 772
(B-6)講師の熱意が十分に伝わった	0. 445	0. 708
(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0. 408	1. 000
(B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0. 395	0. 685

これを見ると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢)と(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価)の相関係数は0.408 と、相関は見られるものの、弱い相関となっている。つまり放送授業の取組姿勢は放送授業の評価とは、あまり関連性が強くない事を示している。

それに比べ、放送授業の総合評価である(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」と各項目の相関は軒並み高く、特に(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」の相関係数は 0.7 を越え、極めて強い相関となっている。

次に、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)を基準に印刷教材に関する各評価項目との相関係数を求めた結果と、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)を基準に印刷教材に関する各評価項目との相関係数を求めた結果を並べたものが(表 2 - 3)である。

表 2 - 3 【学部】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A-3)印刷教材を熱心に 学習した	(B-12) 印刷教材は教材 としてよくできている と感じた
(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	1.000	0. 280
(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0. 312	0. 584
(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0. 317	0. 565
(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0. 250	0. 573
(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0. 300	0. 763
(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0. 224	0. 693
(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0. 280	1.000

これを見ると、やはり取組姿勢と評価の間にはあまり強い相関はない。

一方、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価) と印刷教材の各評価項目とでは相関は強い。特に(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明 も分かりやすかった」と(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立っ た」は強い相関が見られる。

最後に(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」と、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」の3項目をそれぞれ基準として各評価項目の相関係数を見たのが表2-4である。

表 2 - 4 【学部】取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A-1)全体とし て、この科目の 学習に熱心に取 り組んだ(熱心 度)	(B-19) この科目 の内容を全体と してよく理解で きた (理解度)	(B-20)この科目 の内容には全体 として満足して いる (満足度)
取	(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0. 449	0. 421
組姿	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0. 589	0. 320	0. 299
勢	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0. 665	0. 398	0. 348
授	(B-1)放送授業の難易度は適切だった	0. 370	0. 554	0. 566
業の難	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0. 351	0. 510	0. 550
量易度	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0. 324	0. 599	0. 607
•	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0. 325	0. 549	0. 581
	(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0. 338	0. 546	0. 613
放送	(B-6)講師の熱意が十分に伝わった	0. 335	0. 439	0. 518
授 業	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0. 331	0. 508	0. 607
	(B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0. 302	0. 476	0. 530
	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0. 309	0. 475	0. 531
印刷	(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0. 311	0. 616	0. 630
教 材	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0. 262	0. 490	0. 525
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0. 296	0. 562	0. 639
単通位信	(B-13)通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0. 280	0. 426	0. 493
認指定道	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0. 310	0. 480	0. 550
試等験	(B-15)単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのに ふさわしい内容だった	0. 269	0. 512	0. 569
	(B-16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0. 342	0. 533	0. 621
全	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0. 431	0. 628	0. 741
— 体 評	(B-18)新しい知識が身につき視野が広がった	0. 434	0. 605	0. 700
価	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0. 449	1.000	0. 758
	(B-20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0. 421	0. 758	1. 000

まず、全体的な熱心度(取組姿勢)を見ると、取組姿勢に関する評価項目に関しては高い相関を示しているが、他評価項目との相関は非常に弱い。理解度と 0.449、満足度とは 0.421 の相関係数であり、熱心度と理解度・満足度との間の相関も決して強くない。

一方、理解度と満足度の相関係数は 0.758 と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いと言える。尚、これまでの分析で注意すべき点は、「相関が強い」ということはすなわち「評価が高い」ということにはならないことである。 つまり、元となる項目と低い評価が一致するところが多いため相関が強くなった、というケースも考えられるのである。

従って、改善点を洗い出す方法としては、次のアプローチが有効である。

- (1) 母集団から、評価の元になる項目で低い評価を出している標本を新たな母集団として抽出する
- (2) 新たな母集団で、評価の元になる項目と各項目の相関係数を求める。
- (3) その相関が強いということは、その項目は評価の元になる項目の評価が低い原因となっていると考えられる。

このようにして改善すべき項目を絞り込む。

このアプローチで放送授業について分析した結果が次頁の表2-5である。

# 表2-5【学部】放送授業と各項目との相関係数

		(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると 感じた (評価1または2)
取	(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	0. 061
組姿	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0. 270
勢	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0. 053
授	(B-1)放送授業の難易度は適切だった	0. 309
業の対	(B-2)放送授業の内容は適切な分量であった	0. 354
量易度	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0. 045
•	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0. 075
	(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0. 510
放送	(B-6)講師の熱意が十分に伝わった	0. 445
授 業	(B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた	1. 000
	(B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0. 414
	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0. 388
印刷	(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0. 149
教 材	(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0. 186
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0. 162
単通位信	(B-13)通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0. 139
世認定試定試	(B-14)通信指導は学習内容の理解に役立った	0. 145
験	(B-15)単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのに ふさわしい内容だった	0. 123
	(B-16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0. 155
全	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0. 221
体 評	(B-18)新しい知識が身につき視野が広がった	0. 178
価	(B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0. 119
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0. 184

表から読み取れるのは、講師に関する項目の値が高い場合、放送授業に対する評価の低さと強い相関にあると考えられる。特に(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、わかりやすかった」が 0.510 と強い相関を示している。つまり、放送授業の評価に関しては、良くも悪くも「講師の説明」が強く関わっていることを示している。同じように、相関係数の高い項目に改善のポイントがあると推察できる。

次に、印刷教材についても同様の分析を行ったのが(表2-6)である。

表2-6【学部】印刷教材と各項目との相関係数

		(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると 感じた (評価1または2)
取組姿	(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	0. 092
	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0. 127
勢	(A-3) 印刷 教材を熱心に学習した	0. 074
授	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0. 248
分野	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0. 238
分難易度	(B-3) 印刷 教材の 難易度 は適切だった	0. 266
·	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0. 240
	(B-5) 護師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.344
放送	(B-6) 護師の熱意が十分に伝わった	0. 296
授業	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0. 324
	(B-8) [TV] テレビの特性が十分に生かされていると感じた [R] 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0. 216
	(B-9) 印刷 教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0. 283
印刷	(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0. 477
教 材	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0. 422
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	1. 000
単通位	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0. 339
単位認定試験	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0. 326
試了	(B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのに ふさわしい内容だった	0. 302
	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0. 285
全	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.368
主体 評価	(B-18) 新しい知識が身につき視野が広がった	0. 338
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.340
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0. 396

この結果から読み取れるのは、「印刷教材の内容は必ずしも明確ではなかった/説明も必ずしも分かりやすくなかった」「図表や写真などが必ずしも適切に用いられていなかった/必ずしも内容の理解に役に立たなかった」と感じている学生が、印刷教材の評価を低くする要因となっている可能性も高いということである。

なぜか講師の項目ともある程度の相関が見られるが、授業というものは放送・印刷教材の両方で受けるものなので、アンケートで評価を下すにあたっては必ずしも放送授業・印刷教材という区分で分けられないケースもあるのではないかと推察される。

#### Ⅱ-2. 大学院の分析結果

## Ⅱ-2-1. 項目平均から見た全体的傾向

ここからは大学院科目の評価結果を見ていく。大学院の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが(図2-47)である。まずこれによって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

項目平均を全体的に見ると、やはり大学院は学部生に比べて取組姿勢・授業評価がや や高く、違った傾向がうかがえる。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値が 3.35、肯定的評価(「あてはまる」+「や やあてはまる」)が 85%であり、『授業評価に関わる項目平均』も平均値が 3.47、肯定的 評価が 87%と高い値を示している。高い意識で学習に取り組んでいること、また授業に 対する評価が高いことが特徴的である。

『授業評価に関わる項目平均』を内容ごとに見ると、『全体評価』は平均値 3.53、肯定的評価 90%と評価が高い。しかし『放送授業』『通信指導・単位認定試験』は平均値が高いが、肯定的評価では他の項目に比べてやや低い割合となっている。

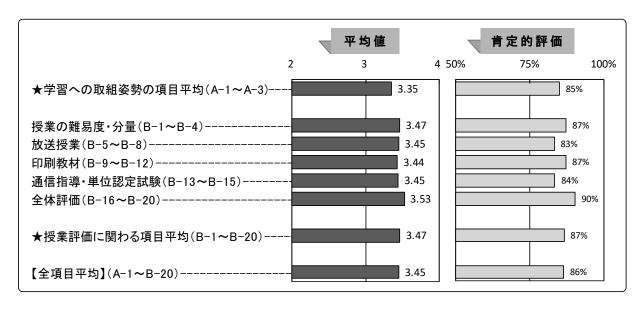


図2-47 【大学院】項目平均による全体的傾向

項目平均を科目の開設年度で比較してみると(図 2 - 4 8)、2016 年度新規開設科目は、2015 年度新規開設科目に比べ、『学習への取組姿勢の項目平均』を時系列で見た場合は平均値、肯定的評価ともに大幅に上がっている。その他の全ての項目でも上がっており、放送授業の上昇幅が一番大きい。

平均値 肯定的評価 ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) ■平成27年度(2015) ■平成27年度(2015) □平成26年度(2014) □平成26年度(2014) 4 50% 75% 100% 2 3.35 85% ★学習への取組姿勢の項目平均(A-1~A-3)---3.21 80% 3.21 80% 87% 3.47 3.33 85% 授業の難易度·分量(B-1~B-4)----T 84% 3.33 3.45 83% 放送授業(B-5~B-8)----79% 3.35 87% 3.44 印刷教材(B-9~B-12)-----3.28 83% 3.25 82% 84% 3.45 通信指導·単位認定試験(B-13~B-15)----3.32 82% 3.29 T80% 3.53 90% 全体評価(B-16~B-20)---3.37 87% 3.36 87% 3.47 ★授業評価に関わる項目平均(B-1~B-20)----83% 3.31 3.32 83% 86% 3.45 【全項目平均】(A-1~B-20)---3.30 83% 3.31 82%

図2-48 【大学院】項目平均による全体的傾向 (開設年度比較)

メディア別に 2016 年度新規開設科目の項目平均を見ると (図 2 - 4 9)、『学習への取組姿勢の項目平均』はテレビ科目の方が高く、『授業評価に関わる項目平均』はテレビ科目もラジオ科目も同じ水準となっている。授業評価に関わる項目の中では、『放送授業』はテレビ科目、『通信指導・単位認定試験』はラジオ科目の方の評価が高い。

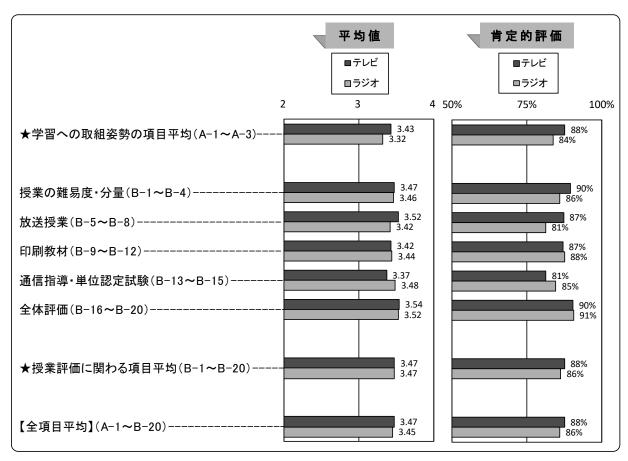
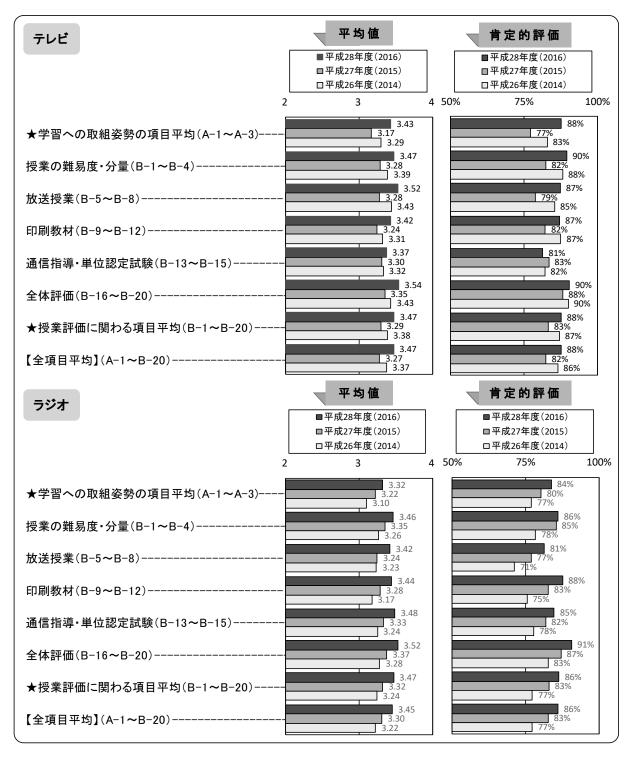


図2-49 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向

メディア別の項目平均を科目の開設年度で比較すると(図 2 - 5 0)、2016 年度新規開設科目では、2015年度新規開設科目に比べ、テレビ科目は『学習への取組姿勢の項目平均』も『授業評価に関わる項目平均』も大きく上回っている。

ラジオ科目では平均値も肯定的評価も年々上昇傾向である。

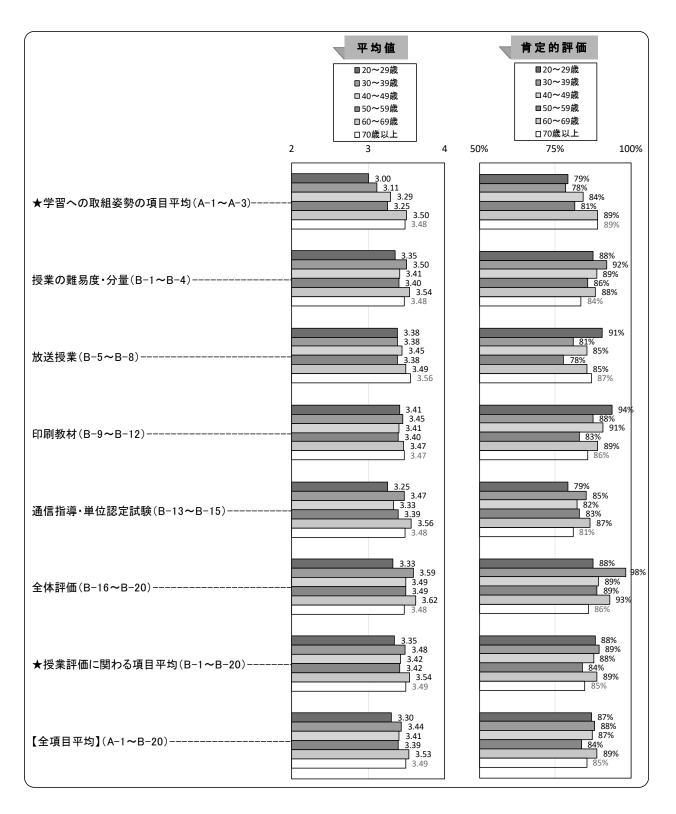
図2-50 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向 (開設年度比較)



回答者の年齢階層別で2016年度新規開設科目の項目平均を見ると(図2-51)、ほとんどの項目において60歳代および70歳以上が高い傾向にある。

30歳代では『学習への取組姿勢の項目平均』の評価が低くなっている。(20~29歳はサンプル数が8と少ないので参考値とする。以下同様)

図2-51 【大学院】項目平均による年齢階層別全体的傾向



科目の所属プログラム別に項目平均を見ると(図2-52)、全ての項目で「生活健康 科学」、「自然環境科学」の値が極めて高くなっている。

上記2プログラムよりは劣るが「人文学」も高い値となっており、「人間発達科学」も 決して低い値ではない。(「情報学」はサンプル数が 15 と少ないので参考値とする。以下 同様)

図2-52 【大学院】項目平均による所属プログラム別全体的傾向 平均値 肯定的評価 ■生活健康科学 ■生活健康科学 ■人間発達科学 ■人間発達科学 ■人文学 ■人文学 □情報学 口情報学 ■自然環境科学 ■自然環境科学 4 25% 100% 2 3 50% 75% 3.47 87% 3.22 81% ★学習への取組姿勢の項目平均(A-1~A-3)--3.28 84% 3.20 84% 3.47 88% 3.61 87% 3.37 81% 89% 授業の難易度・分量(B-1~B-4)-3.48 2.98 75% 3.46 91% 3.63 84% 3.27 78% 3.43 84% 放送授業(B-5~B-8)---2.98 3.57 90% 3.38 85% 印刷教材(B-9~B-12)-----3.41 87% 2.92 67% 3.48 89% 3.59 3.43 80% 80% 通信指導·単位認定試験(B-13~B-15)-----3 31 80% T3.25 3.55 87% 93 3.46 88% 全体評価(B-16~B-20)----3.47 89% 3.16 76% 3.57 94% 83% ★授業評価に関わる項目平均(B-1~B-20)---3.43 86% 3.05 73% 3.52 3.61 82% 【全項目平均】(A-1~B-20)-----3.41 86% 3.07 74% 90% 3.51

職業別に項目平均を見ると(図2-53)、『学習への取組姿勢の項目平均』は「公務員等」「教員」「無職」で評価が高く、「会社員」でやや低くなっている。

『授業評価に関わる項目平均』は、どの職業も高い水準になっており、「会社員」の評価が他に比べればやや低めだが、決して低い水準ではない。(サンプル数が少ない「農業党」(7)、「看護師等」(13)、「家事専業」(17)、「他大学等の学生」(2)、「その他」(21)は参考値とする。以下同様)

★学習への取組姿勢の項目平均(A-1~A-3) 平均值 肯定的評価 2 3 4 50% 75% 100% 公務員等 3.45 公務員等 7 88% 教員 3.43 教員 89% 77% 会社員 3.16 会社員 個人営業·自営業 3.37 個人営業·自営業 84% 81% 3.29 農業等 農業等 看護師等 3.33 看護師等 85% 家事専業 3.31 家事専業 86% パート・アルバイト パート・アルバイト 3.38 □ 82% 他大学等の学生 3.6 他大学等の学生 100% 無職 3.43 無職 87% その他 3.24 その他 84% ★授業評価に関わる項目平均(B-1~B-20) 平均值 肯定的評価 100% 2 3 4 50% 75% 公務員等 公務員等 3.44 88% 教員 □ 84% 教員 3.45 会社員 3.33 会社員 33% 個人営業·自営業 89% 個人営業・自営業 3.49 農業等 88% 農業等 3.30 看護師等 88% 看護師等 3.57 90% 家事専業 3.63 家事専業 パート・アルバイト パート・アルバイト □ 94% 3.65 他大学等の学生 00% 他大学等の学生 3.53 無職 無職 3.52 88% その他 □ 84% その他 3.52 【全項目平均】(A-1~B-20) 平均値 肯定的評価 2 3 4 50% 75% 100% 公務員等 3.45 公務員等 388% 数旨 3.45 **7** 85% 教員 会社員 3.31 会社員 □ 82% 個人営業·自営業 3.47 個人営業・自営業 農業等 3.30 87% 農業等 看護師等 3.54 看護師等 88% 家事専業 3.59 家事専業 □ 90% パート・アルバイト 3.61 パート・アルバイト 92% 他大学等の学生 3.54 他大学等の学生 100% 無職 3.51 無職 88% その他 3.48 その他 84%

図2-53 【大学院】項目平均による職業別全体的傾向

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

学習への取組姿勢(図2-54)では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」は、平均値3.49、肯定的評価91%で、熱心に学習されている。同様に(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も平均値3.47、肯定的評価91%と高い。しかしこれらに比べると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値3.10、肯定的評価74%と低くなっている。学部と同様、全体としては熱心に学習に取り組んでいるものの、印刷教材での学習が中心となっている。印刷教材に比べ放送授業の視聴度合いがよくないのは、時間的な制約も考えられるが、放送授業の内容そのものが影響しているとも考えられるので、今後もより興味・関心を引く講義への改善努力を進めるべきであろう。

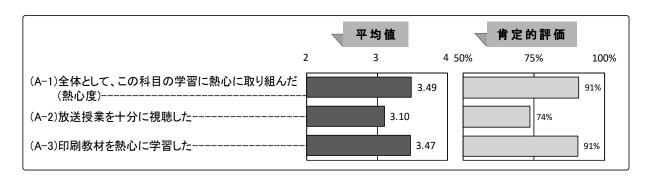


図2-54 【大学院】回答者全体の取組姿勢

学習への取組姿勢を時系列で見ると(図 2-55)、平均値・肯定的評価において各項目とも 2015 年を上回っている。しかし、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の評価は低い水準にとどまっている。

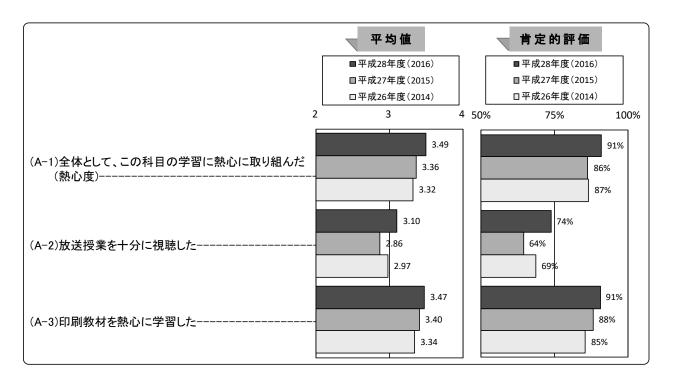


図2-55 【大学院】回答者全体の取組姿勢 (時系列)

メディア別の取組姿勢を見ると(図 2 - 5 6)、3 項目ともテレビ科目の方がラジオ科目より高く、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」での差が大きい。前年度はテレビ科目とラジオ科目の視聴度は同等の数字であったので、自由回答等から原因を探る必要がある。今後もテレビ科目、ラジオ科目ともに授業内容の見直し等を行うことにより、放送授業の視聴を上げていく必要があるだろう。

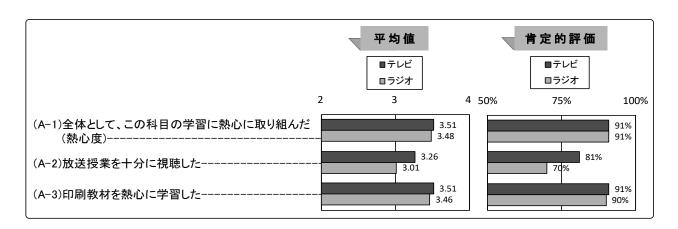


図2-56 【大学院】メディア別の取組姿勢

メディア別の取組姿勢を時系列で見ると (図 2-57)、2016 年度新規開設科目では、テレビ科目、ラジオ科目ともいずれの項目でも 2015 年度新設科目を上回る評価となっている。

特に評価が上昇したのはテレビ科目の (A-2)「放送授業を十分に視聴した」である。

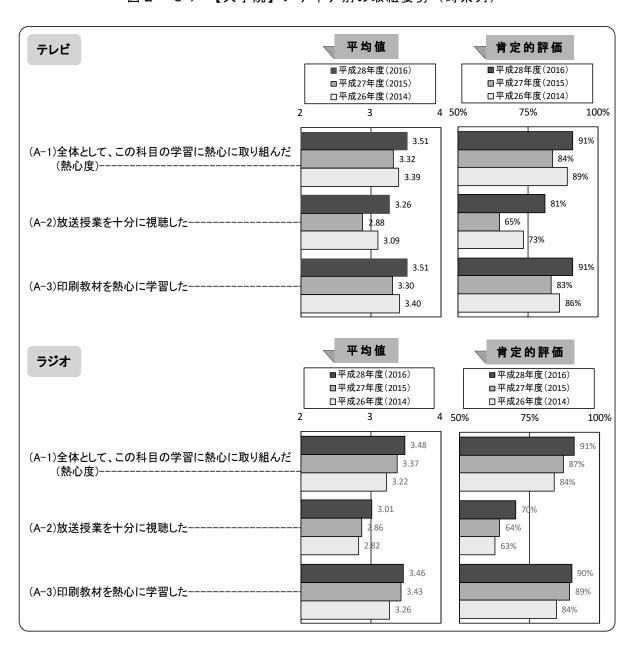


図2-57 【大学院】メディア別の取組姿勢(時系列)

年齢階層別に取組姿勢を見ると (図 2-58)、各項目とも概ね年齢層が高いほど評価が高くなる傾向がうかがわれる。

(A-2)「放送授業を十分に視聴した」では 50 歳代以下の評価が低く、40 歳代以下では 3 を下回っている。

放送授業と印刷教材を比べると、総じて全ての年齢階層で学習の重心は印刷教材に寄っていることがうかがえる。

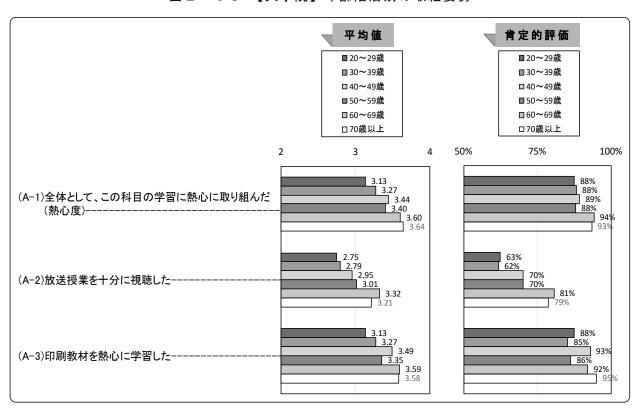


図2-58 【大学院】年齢階層別の取組姿勢

所属プログラム別に取組姿勢を見ると(図2-59)、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」では「生活健康科学」と「自然環境科学」で平均値・肯定的評価が高い。(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」においては全てのプログラムで肯定的評価が90%前後の高い値を示している。

一方、「人間発達科学」はいずれの項目でも他と比べて評価が低く、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」に至っては肯定的評価が 64% にしか過ぎないので、原因の解明と改善策が求められる。

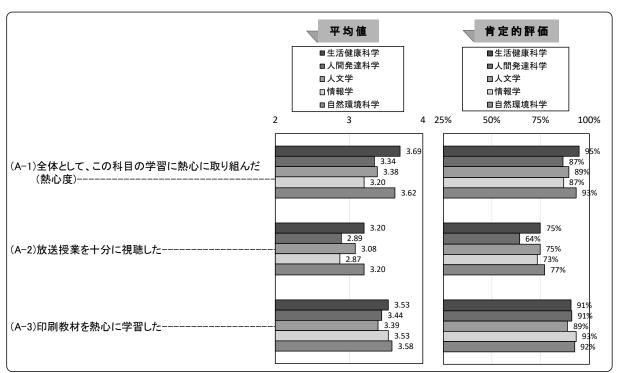
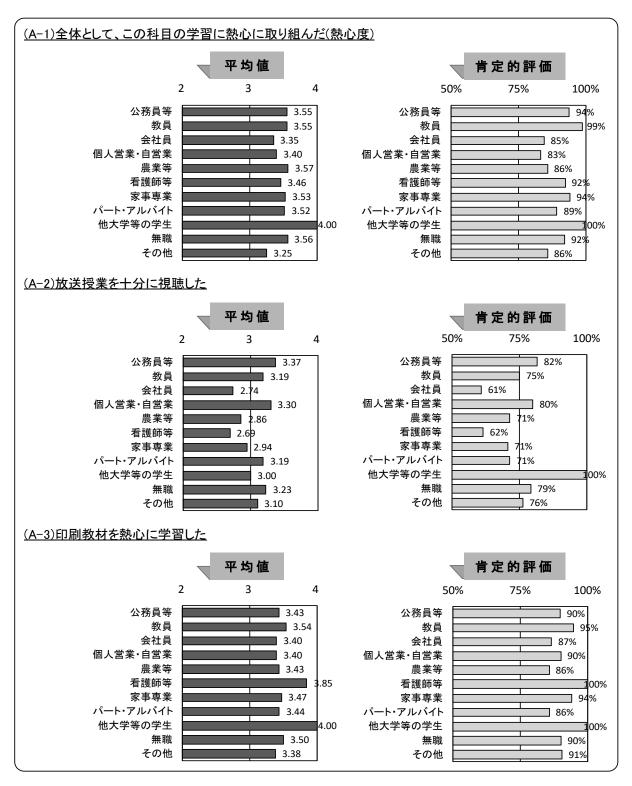


図2-59【大学院】所属プログラム別の取組姿勢

職業別に取組姿勢を見ると(図 2 - 6 0)、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」では全体的に評価が高い。(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」でもいずれの職業も取組姿勢は一定の高い水準を示している。

(A-2)「放送授業を十分に視聴した」では、総じて低めの値であり、「会社員」では3 を下回っているが、「公務員」「個人営業・自営業」「無職」では評価がやや高めである。

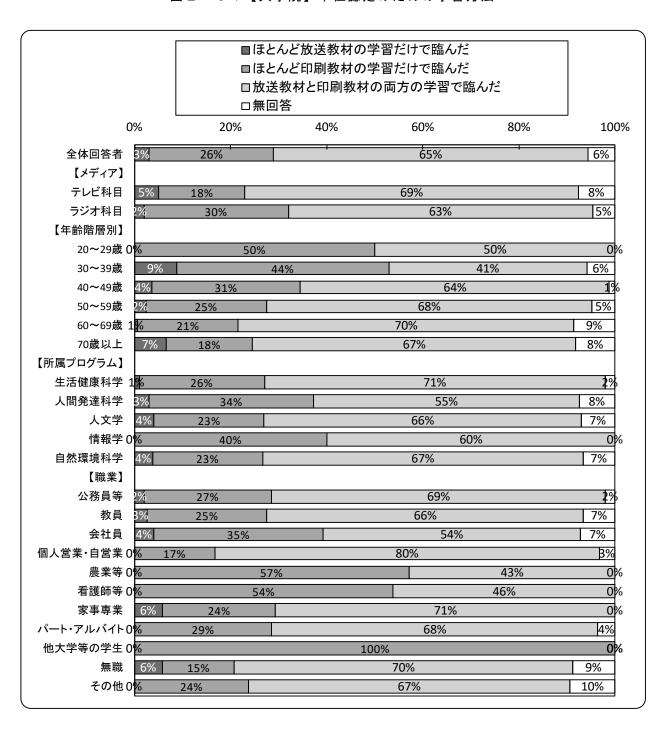
図2-60【大学院】職業別の取組姿勢



単位認定のための学習方法(図2-61)は、全体では「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が65%を占め、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が26%となっている。「ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ」は極めて少ない。

年齢層が低いほど「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」割合が大きく、30歳代では「ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ」と合わせて53%と約半数の人が放送教材と印刷教材を連動させていないことになる。

図2-61【大学院】単位認定のための学習方法



## (1) 全体評価

ここからは大学院の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

まず全体評価を見ると(図 2 - 6 2)、いずれの項目も高い評価となっている。特に (B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」は、平均値 3.69、肯定的評価 93%と 非常に高くなっている。

(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」も平均値 3.53、肯定的評価 91%と高い満足度を示しているのに対し、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」では、平均値 3.42、肯定的評価 88%となり、満足度と理解度に若干の差異を生じた。

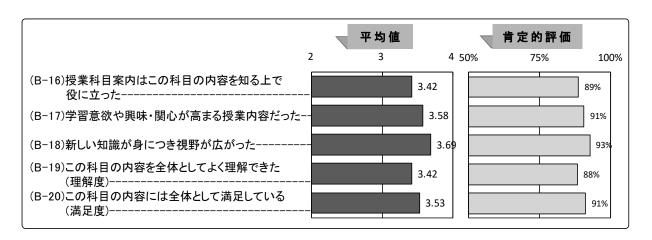


図2-62【大学院】回答者全体の全体評価

全体評価を時系列で見ると(図 2-6 3)、全ての項目において 2016 年度は 2015 年度 の水準を大きく上回っている。特に、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容 だった」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」の上昇幅が大きい。

平均値 肯定的評価 ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) □平成27年度(2015) ■平成27年度(2015) □平成26年度(2014) 口平成26年度(2014) 4 50% 100% 3.42 89% (B-16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で 87% 3.33 役に立ったーー 3.30 86% 3.58 91% (B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった-3.39 87% 3.43 88% 93% 3.69 (B-18)新しい知識が身につき視野が広がった-3.53 92% 3.53 90% 3.42 88% (B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた 3.25 84% (理解度))-----84% 3.22 3.53 91% (B-20)この科目の内容には全体として満足している 3.34 86% (満足度)-----3.34 85%

図2-63【大学院】回答者全体の全体評価 (時系列)

メディア別に全体評価を見ると(図 2-64)、全体的に評価は高い。特に(B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」のテレビ科目では平均値 3.74、肯定的評価 95%と非常に高くなっている。ラジオ科目でも平均値 3.66、肯定的評価 92%と高い評価を得ている。

また、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」ではラジオ科目の方がテレビ科目より評価が高いが、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」では逆転し、テレビ科目の方がラジオ科目より評価が高くなっている。

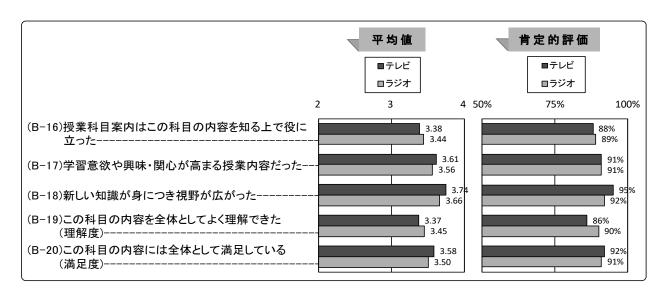


図2-64【大学院】メディア別の全体評価

メディア別の全体評価を時系列で見ると(図 2-65)、テレビ科目は、昨年度はいずれの項目も前年度を下回ったが、2016年新規開設科目は 2015年新規開設科目に比べで大きく上昇し、2014年度の水準も上回った。

ラジオ科目は、2016年新規開設科目ではいずれの項目においても 2015年度を大きく 上回る高い数値を示し、年々上昇傾向である。改善への取り組みの成果が表れている。

平均值 肯定的評価 テレビ ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) □平成27年度(2015) □平成27年度(2015) □平成26年度(2014) □平成26年度(2014) 4 50% 100% 75% 3.61 91% (B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった-3.34 88% 3.50 91% 3.74 95% (B-18)新しい知識が身につき視野が広がった--3.50 939 3.59 93% 3.37 86% (B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた 3.21 84% (理解度)-3.32 88% 3.58 92% (B-20)この科目の内容には全体として満足している 3.35 88% (満足度)-3.41 89% 平均值 肯定的評価 ラジオ ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) □平成27年度(2015) □平成27年度(2015) □平成26年度(2014) 口平成26年度(2014) 4 50% 75% 100% 3 3.56 91% (B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった-3.40 87% 3.33 83% 92% 3.66 (B-18)新しい知識が身につき視野が広がった--3.53 92% 3.45 87% 3.45 90% (B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた 84% 3.26 (理解度)--3.09 79% 91% 3.50 (B-20)この科目の内容には全体として満足している 3.34 86% (満足度)--81% 3.25

図2-65【大学院】メディア別の全体評価 (時系列)

年齢階層別に全体評価を見ると(図 2-66)、サンプル数の少ない 20 歳代を除けば、全ての項目、年齢層を通じて 70 歳代の (B-16)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」の 3.28 が最も低い値であり、全体的に評価が高いことがわかる。

肯定的評価も全ての年齢層でいずれの項目においても 80%以上になっており、高い水準である。

各項目とも30歳代と60歳代の評価が特に高い。

平均值 肯定的評価 ■20~29歳 ■20~29歳 ■30~39歳 ■30~39歳 □40~49歳 □40~49歳 ■50~59歳 ■50~59歳 □60~69歳 □60~69歳 □70歳以上 口70歳以上 50% 100% 75% 3 3.50 3.49 97% 91% \_\_\_\_89% (B-16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で 役に立った-3.40 3.47 90% 3.38 3.65 3.51 88% 100% (B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった-3.52 90% 3.68 3.60 (B-18)新しい知識が身につき視野が広がった--3.67 92% 86% 86% 3.44 3.35 3.40 (B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた 86% 92% (理解度)-3.50 3.43 89% 3.50 3.59 3.45 (B-20)この科目の内容には全体として満足している 3.46 89% (満足度)-94% 3.65 87% 3.48

図2-66【大学院】年齢階層別の全体評価

所属プログラム別に全体評価を見ると(図 2-67)、サンプル数の少ない「情報学」を除き、高水準の値を示している。「生活健康科学」は全ての項目において最も評価が高く、「自然環境科学」が(B-16)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」を除き 2 番目に高くなっている。

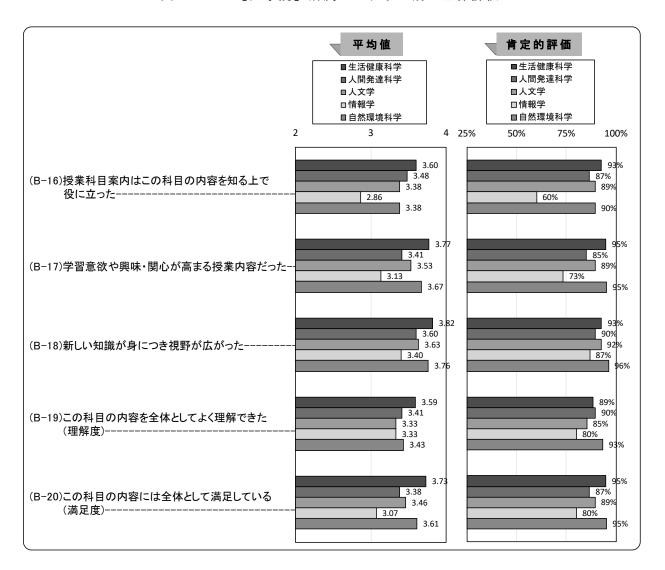


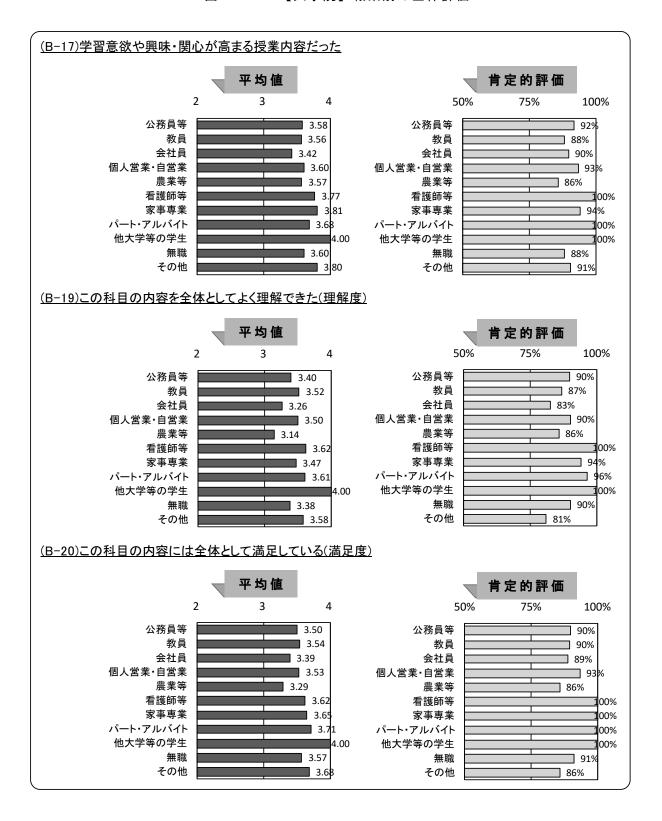
図2-67【大学院】所属プログラム別の全体評価

職業別に全体評価を見ると(次頁図2-68)、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」はいずれの職業でも高い評価となっている。(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」では総じて肯定的評価が80%を超え、一定の水準の評価である。(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」においては肯定的評価が90%近いかそれ以上となっており、さらに高評価である。

他の職業と比べると、「会社員」の評価がいずれの項目でも低めである。

また、いずれの職業においても理解度を満足度が上回るか、ほぼ同じ水準となっている。

# 図2-68【大学院】職業別の全体評価



### (2)授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていく。

授業の難易度・分量の評価は(図 2-69)、いずれも高い評価となっている。ただし、 印刷教材に比べ、放送授業は平均値においてはあまり差がないが、肯定的評価において 難易度・分量ともやや低い。

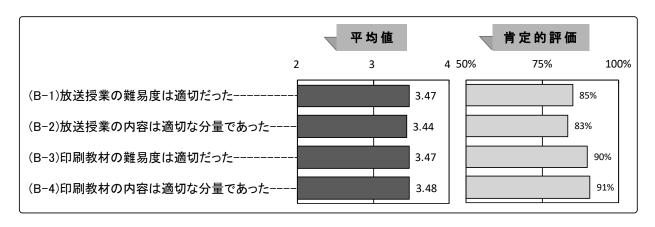


図2-69【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価

授業の難易度・分量の評価を開設年度で比較すると(図2-70)、いずれの項目でも 前年の評価を上回っており、印刷教材の難易度・分量の評価は年々上向きである。

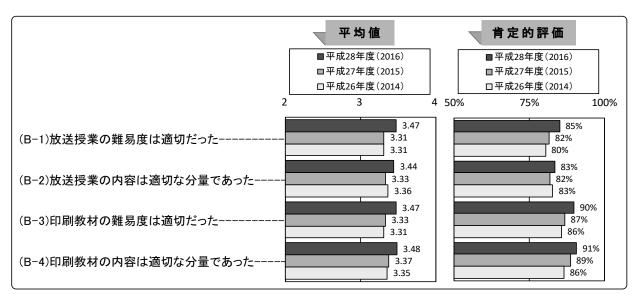
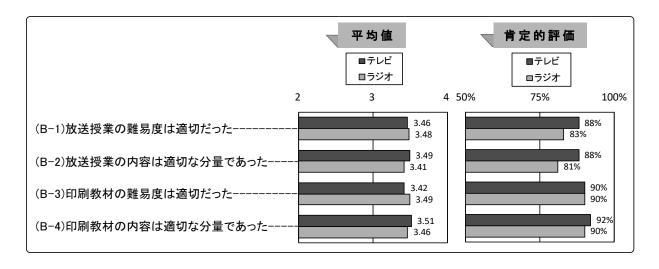


図2-70【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価 (開設年度比較)

メディア別に授業の難易度・分量を見ると(図 2 - 7 1)、平均値では放送授業、印刷 教材とも難易度はラジオ科目、分量はテレビ科目の方の評価が高くなっている。ただし、 肯定的評価で見ると印刷教材ではほとんど差がなく、放送授業ではテレビ科目の方の評 価が高くなっている。

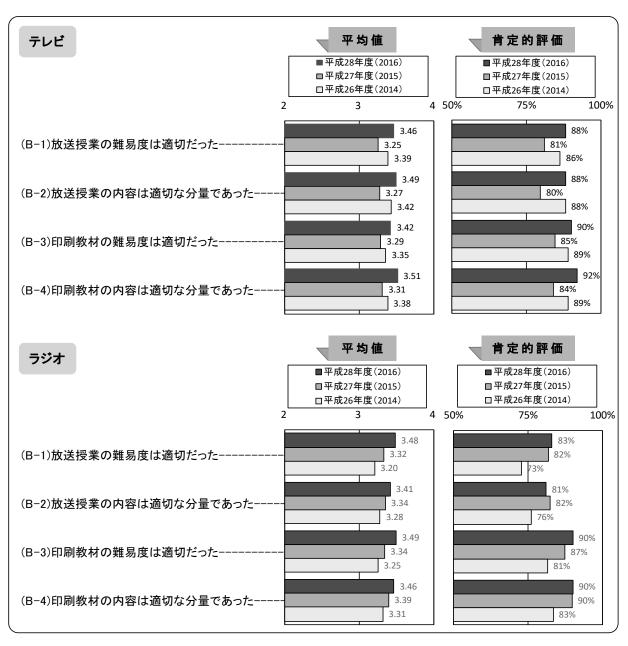
図2-71【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると(図 2-72)、テレビ科目は全ての項目で 2015 年度より評価が高くなっており、2015 年度と逆の傾向を示した。水準は 2014 年度を上回っている。

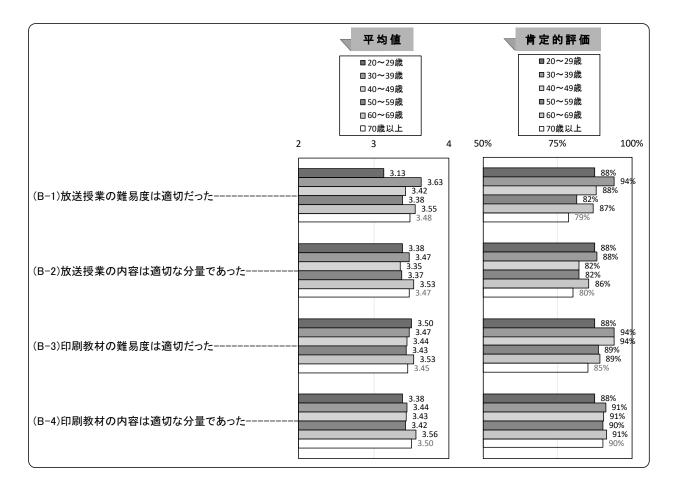
ラジオ科目は全ての項目の評価が前年度より高く、年々上昇傾向である。放送授業、 印刷教材とも難易度の評価の伸びが特に大きい。

図2-72【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると(図2-73)、放送授業、印刷教材ともに40歳代、50歳代で他の年齢層に比べると評価がやや低めとなっている。

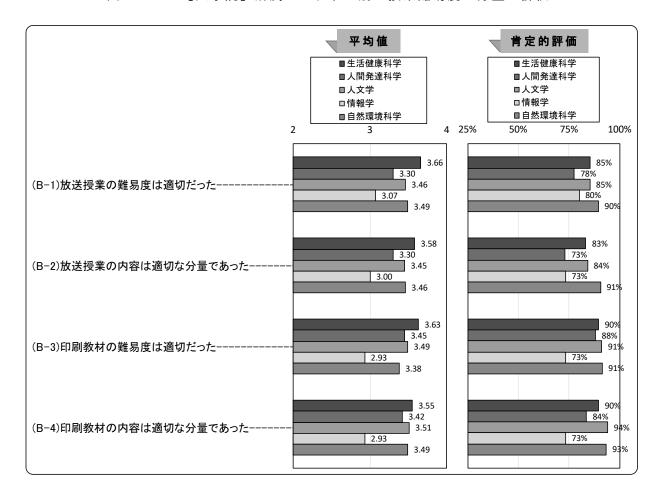




所属プログラム別に授業の難易度・分量を見ると (図 2 - 7 4)、「生活健康科学」がいずれの項目においても、評価が高い。

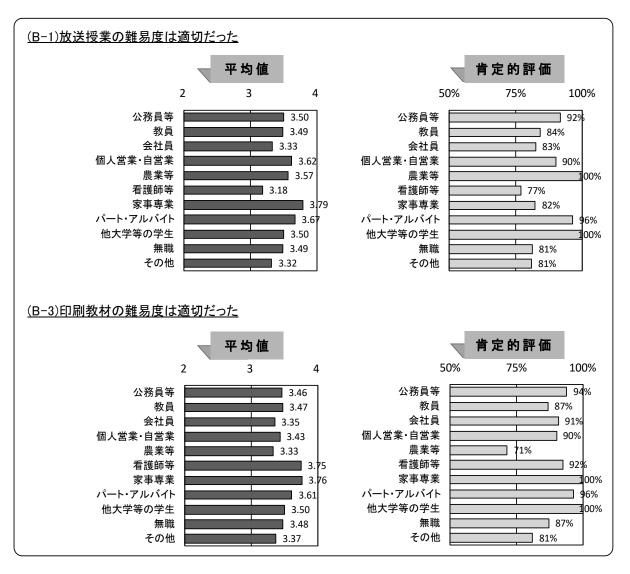
放送授業の難易度・分量ともに「人間発達科学」の評価がやや低くなっている。

図2-74【大学院】所属プログラム別の授業難易度・分量の評価



職業別に授業の難易度を見ると(図2-75)、放送授業、印刷教材ともに難易度については「会社員」の評価が他の職業と比べるとやや低くなっている。

図2-75【大学院】職業別の授業難易度の評価



### (3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていく。

放送授業に関する評価項目を見ると(図 2-76)、放送授業の総合評価でもある(B-7) 「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.47、肯定的評価 83% と高くなっている。また (B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」が最も評価が高く、平均値 3.62、肯定的評価 89% となっており、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」も平均値 3.49、肯定的評価 86% と高くなっている。一方、(B-8)「【TV】 テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、平均値 3.23、肯定的評価 74%に留まっている。それぞれの媒体の特性を生かすさらなる工夫が必要である。

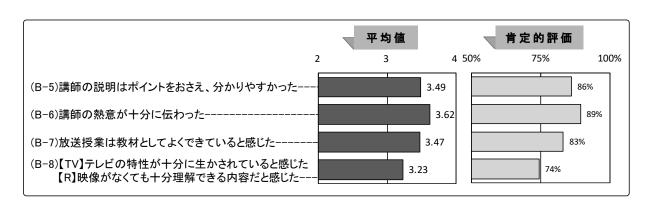
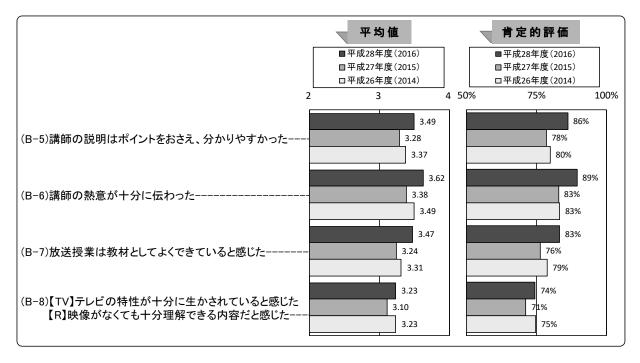


図2-76【大学院】回答者全体の放送授業の評価

放送授業の評価を時系列で見ると(図 2-77)、全ての項目で 2015 年度より評価が高くなっており、2015 年度と逆の傾向を示した。水準は 2014 年度を上回っているか同水準である。

全体的に改善への試みの成果が出たと言える。

図2-77【大学院】回答者全体の放送授業の評価(時系列)



メディア別に放送授業の評価を見ると(図2-78)、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」の項目を除きテレビ科目はいずれもラジオ科目より高い評価を得ている。特に (B-8)「TV」テレビの特性が十分に生かされていると感じた/TV 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の差が大きく、映像のないデメリットを補う理解促進の工夫がラジオ科目には求められる。

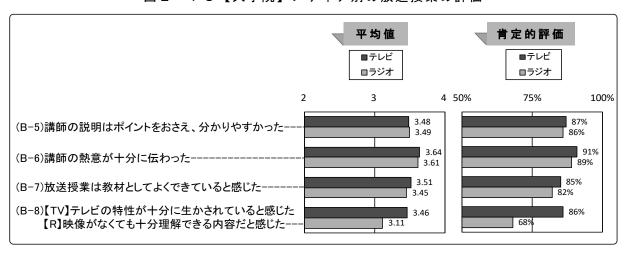


図2-78【大学院】メディア別の放送授業の評価

メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると(図 2-79)、テレビ科目は全ての項目で 2015 年度より評価が高くなっており、2015 年度と逆の傾向を示した。水準は 2014 年度を上回っているか同水準である。

ラジオ科目については、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた /【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の伸びは僅かにとどまったが、 他の項目は大きく伸びた。

平均值 肯定的評価 テレビ ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) ■平成27年度(2015) ■平成27年度(2015) □平成26年度(2014) 口平成26年度(2014) 4 50% 75% 100% 3.48 87% (B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった--3.29 79% 3.48 86% 3.64 91% (B-6)講師の熱意が十分に伝わった-3.34 82% 3.52 88% 3.51 85% 3.26 (B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた--77% 3.37 85% 3.46 86% (B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 3.21 76% 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた-3.35 81% 平均値 肯定的評価 ラジオ ■平成28年度(2016) ■平成28年度(2016) ■平成27年度(2015) ■平成27年度(2015) □平成26年度(2014) □平成26年度(2014) 4 50% 100% 86% 3.49 (B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった--78% 3.28 3.21 1% 3.61 89% (B-6)講師の熱意が十分に伝わった---83% 3.39 77% 3.44 82% 3.45 (B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた-3.23 76% 3 22 689 3 11 (B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 3.08 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた-3.07 66%

図2-79【大学院】メディア別の放送授業の評価 (時系列)

年齢階層別に放送授業の評価を見ると(図 2-80)、放送授業の総合評価でもある (B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」や (B-8)「【TV】テレビの特性 が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は 70 歳以上の評価が最も高い。

(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」の講師に関連する項目では 60 歳代以上の高齢層での評価が特に高くなっている。

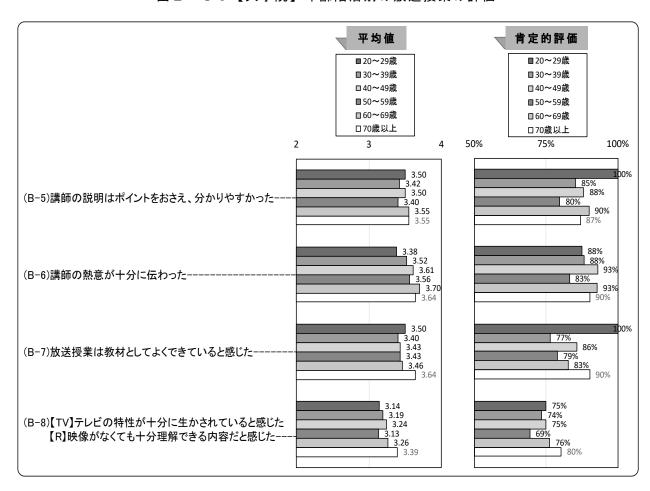


図2-80【大学院】年齢階層別の放送授業の評価

所属プログラム別に放送授業の評価を見ると(図2-81)、「生活健康科学」「自然環境科学」「人文学」の3プログラムからは全体的に高い評価を得ている。

- (B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は「生活健康科学」、(B-6) 「講師の熱意が十分に伝わった」は「生活健康科学」「自然環境科学」で平均値が 3.7 を超え、極めて高い評価となっている。
- (B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても 十分理解できる内容だと感じた」は、「人間発達科学」の評価がやや低い。

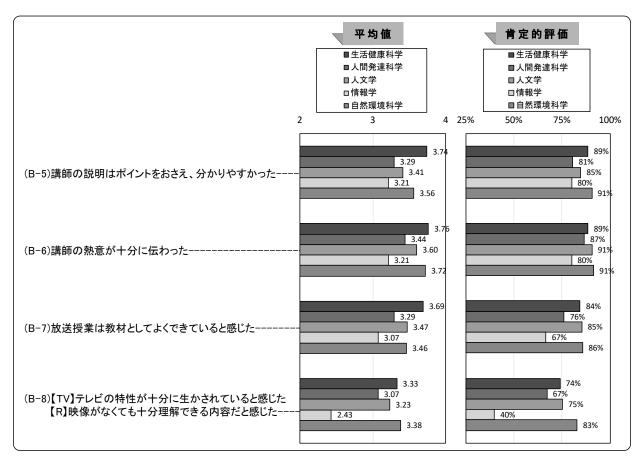
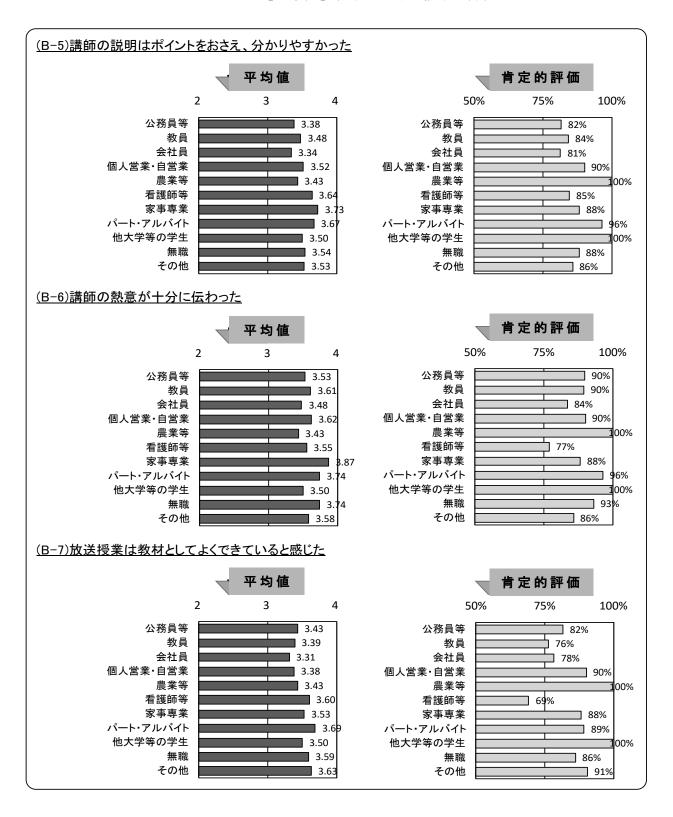


図2-81【大学院】所属プログラム別の放送授業の評価

職業別に放送授業の評価を見ると (図 2-82)、どの職業でも総じて高い平均値を示しているが、「会社員」の評価が他の職業と比べるとどの項目もやや低めになっている。

図2-82【大学院】職業別の放送授業の評価



# (4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

印刷教材の評価項目では(図2-83)、いずれも高い評価を得ている。総合評価としての(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は平均値3.51、肯定的評価91%、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は平均値3.48、肯定的評価86%、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は平均値3.45、肯定的評価89%と特に高くなっている。

平均值 肯定的評価 3 4 50% 75% 100% (B-9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は 86% 3.48 適切だった-(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった-3.45 89% (B-11)図表や写真などが適切に用いられ、 83% 3.30 内容の理解に役立った--(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた-3.51 91%

図2-83【大学院】回答者全体の印刷教材の評価

印刷教材の評価を時系列で見ると(図 2-84)、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」では年々評価が高くなっており、2016年度は上昇幅が大きい。(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」では、2015年度は前年度よりも低くなったが、2016年度は大幅に評価が上がった。図表・写真の見直しが功を奏したと推察される。

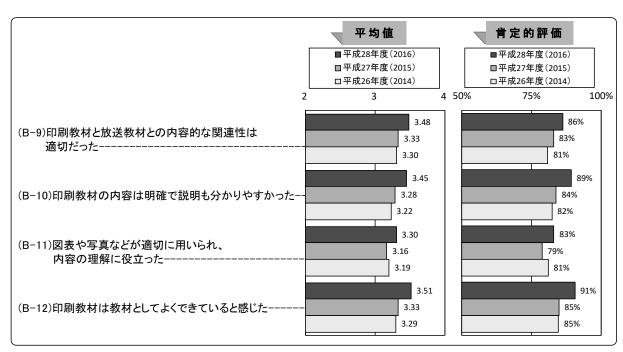


図2-84【大学院】回答者全体の印刷教材の評価 (時系列)

印刷教材の評価をメディア別に見ると(図 2-85)、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」はラジオ科目の方の評価が高くなっているが、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」ではラジオ科目の方の評価が低い。映像のないラジオの放送授業にあっては視覚的要素を補完するために、テレビ科目以上に図表や写真などを教材に盛り込むことが必要であろう。

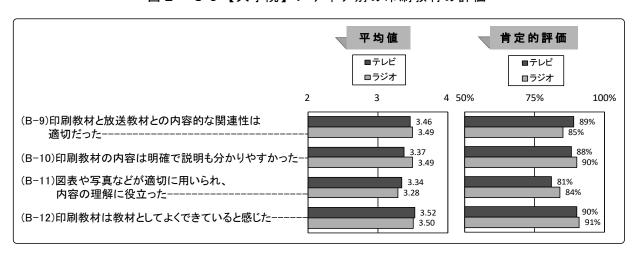
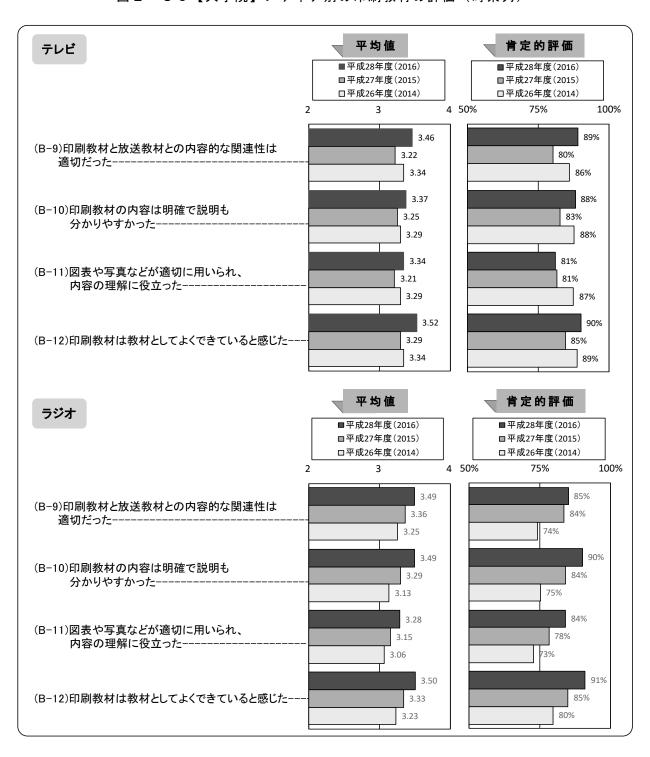


図2-85【大学院】メディア別の印刷教材の評価

メディア別の印刷教材の評価を時系列で見ると(図 2-86)、テレビ科目は全ての項目で 2015 年度より評価が高くなっており、2015 年度と逆の傾向を示した。水準は 2014 年度を上回っている。

ラジオ科目については、全ての項目の評価が前年度より高く、上昇幅も大きい。年々上昇傾向である。

図2-86【大学院】メディア別の印刷教材の評価 (時系列)



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると(図 2-87)、全体として高い値となっており、特に評価の低い年齢層はない。総合評価としての (B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」では 30 歳代の評価が最も高い。(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」は年齢層が低くなるにつれて評価が低くなる傾向がある。

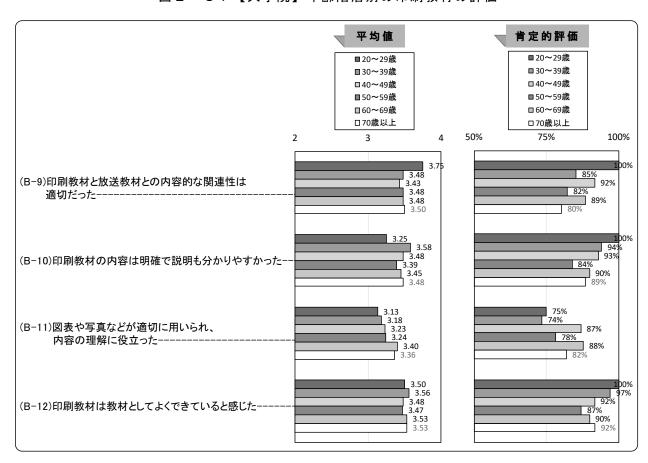


図2-87【大学院】年齢階層別の印刷教材の評価

所属プログラム別に印刷教材の評価を見ると(図 2-88)、総合評価の(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、「生活健康科学」、「自然環境科学」の評価が高い。

「生活健康科学」は (B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」、 (B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」でも最も評価が高い。

「自然環境科学」は、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」の評価が最も高く、それが総合的な評価につながったと考えられる。

平均值 肯定的評価 ■生活健康科学 ■生活健康科学 ■人間発達科学 ■人間発達科学 ■人文学 ■人文学 □情報学 口情報学 ■自然環境科学 ■自然環境科学 2 4 25% 75% 100% 3.62 85% 3.39 81% (B-9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は 3.46 87% 適切だった-3.00 67% 3.53 91% 3.65 93% 3 43 88% (B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった-3.44 89% 2.80 60% 3.40 91% 3.35 87% 3.20 (B-11)図表や写真などが適切に用いられ、 3.25 79% 内容の理解に役立った-3.13 80% 87% 3.42 3.66 94% 3.48 90% (B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた-3.47 919 2 73 3.56 92%

図2-88【大学院】所属プログラム別の印刷教材の評価

職業別に印刷教材の評価を見ると(図2-89)、総合評価の(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、全体的に評価が高い。一方、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」の評価では「会社員」が他の職業に比べやや低い評価となっている。

(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった 平均值 肯定的評価 2 3 4 50% 75% 100% 公務員等 3.38 公務員等 88% 教員 3.47 教員 36% 会社員 3.32 会計員 3 87% 個人営業・自営業 3.50 個人営業・自営業 93% 農業等 3.29 農業等 86% 看護師等 3.69 看護師等 00% 家事専業 3.59 家事専業 00% パート・アルバイト 3.6 パート・アルバイト 3 89% 他大学等の学生 他大学等の学生 3.50 00% 無職 3.47 無職 その他 3.42 その他 81% (B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った 平均值 肯定的評価 50% 100% 75% 2 4 82% 公務員等 公務員等 3.23 教員 **]** 79% 教員 3.22 会社員 77% 会社員 3.15 個人営業·自営業 3.40 個人営業・自営業 90% 2.71 農業等 57% 農業等 看護師等 3.46 看護師等 ן 92% 3.44 家事専業 388% 家事専業 パート・アルバイト パート・アルバイト □ 89% 他大学等の学生 3.00 他大学等の学生 3.37 無職 36% その他 86% その他 (B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた 平均值 肯定的評価 2 3 4 50% 75% 100% 公務員等 3.46 公務員等 7 90% 教員 3.45 教員 7 87% 会社員 3.42 会社員 929 個人営業・自営業 3.47 個人営業・自営業 農業等 3.29 農業等 36% 看護師等 看護師等 92 家事専業 3.53 家事専業 パート・アルバイト 3.69 パート・アルバイト □ 86% 他大学等の学生 4.00 他大学等の学生 100% 無職 3.56 無職 **38%** その他 3.53 その他 31%

図2-89【大学院】職業別の印刷教材の評価

# (5)通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については(図2-90)、(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が平均値3.47、肯定的評価85%、(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」が平均値3.48、肯定的評価84%と、いずれも高評価である。

単位認定試験についても (B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」が平均値 3.39、肯定的評価 82%と評価が高いと言える。

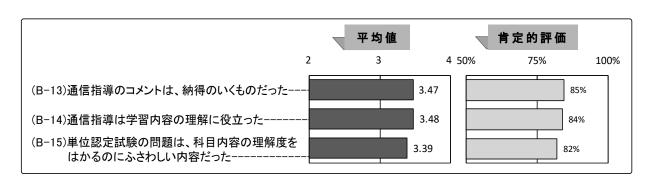


図2-90【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価

通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(図2-91)、いずれの項目も年々上昇しており、2016年度は上昇幅が大きい。

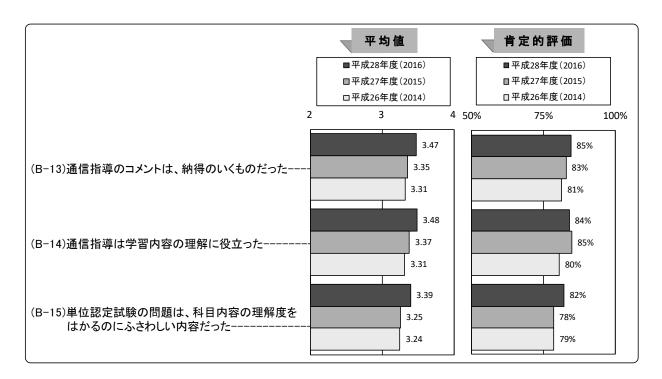
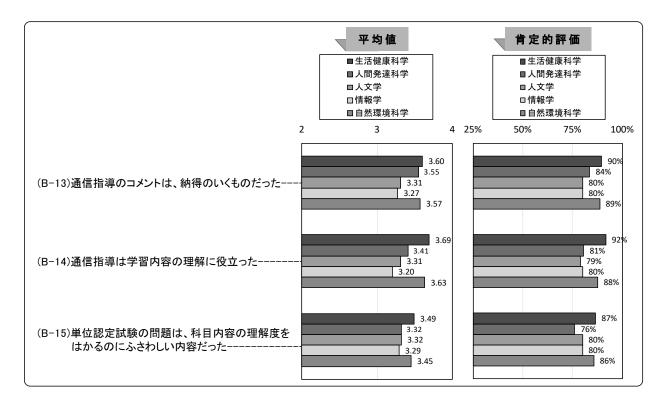


図2-91【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価(時系列)

所属プログラム別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると(図2-92)、特に評価の低いプログラムはない。(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は「生活健康科学」「人間発達科学」「自然環境科学」で評価が高く、(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は「生活健康科学」「自然環境科学」で評価が高い。

また、単位認定試験においても、「生活健康科学」「自然環境科学」で評価が高い。

図2-92【大学院】所属プログラム別の通信指導・単位認定試験の評価



ここでは、学部の場合と同様に、総合評価と各個別評価との関係を、相関係数を用いてみていく(相関係数の意味と見方については、巻末資料を参照されたい)。

(表 2 - 7) は、放送授業の各評価項目と(A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢)及び(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価)の相関係数である。

	(A-2)放送授業を十分に 視聴した	(B-7)放送授業は教材と してよくできていると 感じた
(A-2) 放送授業を十分に視聴した	1.000	0. 346
(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0. 397	0. 552
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0. 420	0. 532
(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0. 348	0. 730
(B-6)講師の熱意が十分に伝わった	0. 377	0. 626
(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0. 346	1. 000
(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0. 258	0. 560

これを見ると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢)と(B-7) 「放送授業は全体としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価)の相関係数は 0.346と、やや相関は見られるものの、強くはない。

また(A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢)と放送授業の各評価項目の間では、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」の相関係数が 0.420とある程度の相関を示しており、放送授業の視聴に際して何らかの影響を与えていることがわかる。

一方、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価) と放送授業の各評価項目との間では、いずれも強い相関が見られ、特に (B-5)「講師の 説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」が相関係数 0.730、(B-6)「講師の熱意が 十分に伝わった」が相関係数 0.626 と、強い相関を示している。したがって、総合評価 を高める上では、特に講師の説明内容や熱意が重要だと言える。 次に、印刷教材の各評価項目と、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への 取組姿勢)及び(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の 総合評価)の相関係数を見たのが表2-8である。

表2-8 【大学院】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A-3)印刷教材を熱心に 学習した	(B-12) 印刷教材は教材 としてよくできている と感じた
(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	1.000	0. 310
(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0. 287	0. 590
(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0. 267	0. 581
(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0. 187	0. 632
(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0. 314	0. 755
(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0. 243	0. 673
(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0. 310	1. 000

まず、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)と各評価項目との間には、あまり相関は見られない。取組姿勢に対する自己評価では、印刷教材に対する評価はあまり表れていない。

一方、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価) と印刷教材の各評価項目とでは相関が強く、特に (B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は相関係数 0.755、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」が 0.673、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」が 0.632 と強い相関を示している。であるから、印刷教材の総合評価をさらに高めるためには、逆に難易度や適量等に注力することが重要と言える。

続けて (A-1) 「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ (熱心度)」、(B-19) 「この科目の内容を全体としてよく理解できた (理解度)」及び (B-20) 「この科目の内容には全体として満足している (満足度)」と各評価項目の相関係数を見たのが (表 2-9) である。

表2-9 【大学院】取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A-1)全体とし て、この科目の 学習に熱心に取 り組んだ(熱心 度)	(B-19) この科目 の内容を全体と してよく理解で きた (理解度)	(B-20) この科目 の内容には全体 として満足して いる (満足度)
取	(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1. 000	0. 486	0. 470
組姿	(A-2)放送授業を十分に視聴した	0. 514	0. 295	0. 282
勢	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0. 727	0. 427	0. 378
授	(B-1)放送授業の難易度は適切だった	0. 410	0. 561	0. 593
業の難見	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0. 403	0. 460	0. 530
量易度	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0. 325	0. 569	0. 589
•	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0. 260	0. 499	0. 533
	(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0. 387	0. 571	0. 604
放送	(B-6)講師の熱意が十分に伝わった	0. 357	0. 442	0. 526
授 業	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0. 264	0. 485	0. 551
	(B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0. 258	0. 387	0. 457
	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0. 261	0. 474	0. 553
印刷	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0. 372	0. 593	0. 612
教 材	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0. 241	0. 469	0. 508
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0. 319	0. 528	0. 589
単通位に	(B-13)通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0. 294	0. 433	0. 485
位認定。	(B-14)通信指導は学習内容の理解に役立った	0. 346	0. 477	0. 545
試・験	(B-15)単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのに ふさわしい内容だった	0. 304	0. 486	0. 556
全体評価	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0. 358	0. 546	0. 599
	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0. 497	0. 649	0. 791
	(B-18) 新しい知識が身につき視野が広がった	0. 451	0. 636	0. 759
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0. 486	1. 000	0. 742
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0. 470	0. 742	1. 000

まず、全体的な熱心度(取組姿勢)と全体評価の理解度、満足度との関係を見ると、熱心度と理解度は 0.486、熱心度と満足度は 0.470 の相関係数であり、熱心度と理解度・満足度との間には緩やかな相関が見て取れる。また理解度と満足度の相関係数は 0.742 と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いと言える。

(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」と各評価項目の相関を見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が相関係数 0.727 と強い相関が見られるが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は相関係数 0.514 となっており、印刷教材中心の学習実態がうかがえる。さらに全体評価の各評価項目とも緩やかな相関が見られる。

(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」以外の各評価項目と相関が見られる。理解度は、放送授業や印刷教材の難易度・分かりやすさ、授業内容が興味や関心の高まるものであったかどうか、新しい知識が身につき視野が広がるものであったかどうかなど、さまざまな項目が要因となっている状況がうかがえる一方、取組姿勢とはあまり密接な関連は見られない。しかし、放送授業の存在意義を考えればさらなる改善が必要であろう。

(B-20)「この科目の内容には全体として満足している (満足度)」は、各評価項目と相関が見られ、満足度を高める上でいずれの評価項目も影響していることが分かる。なかでも特に相関が強いのは、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」である。科目の満足度を高める上では全ての要素が連動して満足度に寄与する必要があるが、特に印刷教材の分かりやすさ、興味・関心のもてる授業内容、視野が広がるような知識の習得などが重要なポイントと言える。

また、学部で行った分析と同様の方法で放送授業、印刷教材の改善点の分析を試みる。

(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」を基準に、この項目に対して 1、2 の評価を下した標本を母集団に各項目との相関係数を求めたのが(表 2-1 0)である。

表2-10 【大学院】放送授業と各項目との相関係数

		(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると 感じた (評価1または2)
取組姿	(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	-0. 373
	(A-2)放送授業を十分に視聴した	0. 275
勢	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	-0. 298
授	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	-0. 018
業の難	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	-0. 027
量易度	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	-0. 092
•	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.048
	(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0. 215
放送	(B-6)講師の熟意が十分に伝わった	0. 120
授 業	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	1.000
	(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.306
	(8-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0. 393
印刷	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	-0. 128
教 材	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0. 160
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	-0. 219
単通位信	(B-13)通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0. 054
位認定試	(B-14)通信指導は学習内容の理解に役立った	-0.040
試・験・	(B-15)単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのに ふさわしい内容だった	0. 158
全体評価	(B-16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	-0. 035
	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0. 219
	(B-18)新しい知識が身につき視野が広がった	0. 022
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0. 078
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0. 028

(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」と強い相関があるものはなく、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」や(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」とある程度の相関が見られる。ということは放送授業に対する低い評価の大きな改善点がこれらの項目であることを示唆している。

最後に、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」に対して 1、2 の評価を下した標本を母集団として同様に分析したものが(表 2-1 1)である。

表2-11 【大学院】印刷教材と各項目との相関係数

		(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると 感じた (評価1または2)
取組姿勢	(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	-0. 126
	(A-2)放送授業を十分に視聴した	0. 035
	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	-0. 323
授	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.063
業の難	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.092
量易度	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0. 373
٠	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0. 501
	(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	-0. 083
放送	(B-6)講師の熱意が十分に伝わった	0. 243
授 業	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0. 051
	(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0. 171
	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0. 246
印刷	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0. 252
教 材	(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.000
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	1.000
単位認定試	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0. 255
認定	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0. 259
試等験	(B-15)単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのに ふさわしい内容だった	0. 351
	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0. 160
全 体 評	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	-0. 255
	(B-18)新しい知識が身につき視野が広がった	-0. 146
価	(B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	-0. 193
	(B-20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	-0. 106

(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」と強い相関があり、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」、(B-15)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」ともある程度相関が見られる。ということは印刷教材に対する低い評価の大きな改善点がこれらの項目であることを示唆している。